

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( しょうが )

対象病害虫名 アワノメイガ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場 担当者氏名 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

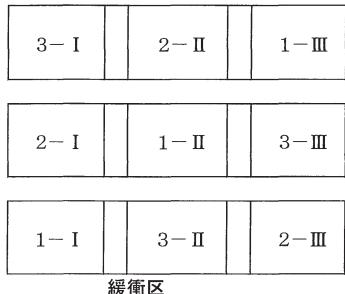
対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:大しょうが 植付け:2024年4月24日 栽植距離:畠幅:150cm×株間35cm 条間45cm

千鳥2条植え 露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤なし。

区制・面積・試験区の構成 1区 5.25m<sup>2</sup> (1.5m×3.5m) 20株 3連制



1 アグロスリン水和剤 2 フェニックス顆粒水和剤 3 無処理

I II IIIは連制を示す。

試験区境の緩衝は1m。

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日・処理量) 第1回:2024年7月2日、第2回:7月12日 何れも処理量は127L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定の濃度に希釈し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が良く濡れる様に散布した。

展着剤(クミテン)を5000倍希釈の割合で添加した。

(作物のステージ) 生育期 (草丈約40cm)

(処理前後の降雨影響) 7月2日の降雨は散布5時間前、7月12日の降雨は散布4時間前のため影響は無かった。

#### 試験期間中の気象条件

月日	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15
平均気温(℃)	26.9	27.9	28.1	28.7	29.2	28.5	28.7	28.4	27.3	24.3	25.6	25.1	25.4	25.4
降水量(mm)	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	130.5	19.5	3.0	27.5	19.0

月日	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25
平均気温(℃)	26.1	27.4	27.4	28.7	29.5	29.1	29.1	29.6	29.3	28.9
降水量(mm)	0	0	3.5	0	0	0	0	0	0	2.0

観測地点:高知試験場内観測データ

#### 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 第1回処理前(7月2日)、同7日後(7月9日)、第2回処理4日後(7月16日)、同7日後(7月19日)、同13日後(7月25日)

(調査方法) 各区全株について、総茎数と被害茎数を調査し、下記の式を用いて被害率を算出した。

$$\text{被害率}(\%) = \frac{\text{被害茎数}}{\text{総茎数}} \times 100$$

薬害は、各調査日に茎葉部への薬害症状の有無について肉眼で観察し、以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

特になし。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( しょうが )

対象病害虫名 アワノメイガ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法 散布回数	連制	第1回処理前 7月2日		第1回処理7日後 7月9日		第2回処理4日後 7月16日		葉害 7/9,16,19,25
			総茎数	被害茎数	総茎数	被害茎数	総茎数	被害茎数	
68) アグロスリン水和剤	1000倍散布 10日間隔 2回	I II III 計	27 27 42 96	2 1 0 3	45 32 43 120	0 1 1 2	51 35 46 132	0 1 1 2	— — — —
シペルメトリソ 6% Lot No.25.10 WC112F		被害茎率(%) (対無処理比)		3.1		1.7		1.5	
対) フェニックス顆粒水和剤	2000倍散布 10日間隔 2回	I II III 計	37 30 32 99	0 0 1 1	50 36 36 122	1 0 1 2	51 36 42 129	1 1 1 3	— — — —
フルベンジアミド 20.0%		被害茎率(%) (対無処理比)		1		1.6		2.3	
無処理		I II III 計	45 37 46 128	0 0 1 1	54 44 49 147	3 2 4 9	56 41 53 150	3 2 5 10	
		被害茎率(%) (対無処理比)		0.8		6.1		6.7	
							(100)	(100)	

供試薬剤	処理方法 散布回数	連制	第2回処理7日後 7月19日		第2回処理13日後 7月25日	
			総茎数	被害茎数	総茎数	被害茎数
68) アグロスリン水和剤	1000倍散布 10日間隔 2回	I II III 計	51 35 46 132	0 2 0 2	55 40 46 141	0 2 0 2
		被害茎率(%) (対無処理比)		1.5 (17.6)		1.4 (14.9)
対) フェニックス顆粒水和剤	2000倍散布 10日間隔 2回	I II III 計	53 36 42 131	1 1 1 3	64 36 42 142	1 1 1 3
		被害茎率(%) (対無処理比)		2.3 (27.1)		2.1 (22.3)
無処理		I II III 計	59 41 53 153	4 2 7 13	69 42 59 170	7 2 7 16
		被害茎率(%) (対無処理比)		8.5 (100)		9.4 (100)

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は第2回処理4、7、13日後の被害茎率の対無処理比の結果で行った。

68) アグロスリン水和剤 1000倍希釈液 2回散布 ABB-

本剤は、対照薬剤のフェニックス顆粒水和剤 2000倍希釈液 2回散布と比較して効果が優り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( しょうが )

対象病害虫名 ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場 担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所: 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 少発生(接種)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:大しょうが 植付け: 2024年4月24日 栽植距離: 穴間 150 cm × 株間 35 cm 条間 45 cm 2条植

露地栽培

土性: 壱土 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 5.25 m<sup>2</sup> ( 1.5m × 3.5m ) 20株 3連制

4-I	3-II	2-II		6-III		
3-I	5-II	6-II		4-III		
2-I	6-I	1-II		5-III		1-III
1-I	5-I	4-II		3-III		2-III

1:BCI-221プロアブル 400倍

2:BCI-221プロアブル 200倍

3:BCI-221プロアブル 16倍

4:ビーラム粒剤 10kg

5:対)ビーラム粒剤 20kg

6:無処理

I、II、IIIは連制を示す。試験区境の緩衝区は1m

#### 緩衝区

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理月日) 2024年4月18日

(処理量) BCI-221プロアブル: 400倍 100L/10a、200倍 50L/10a、16倍 4L/10a、ビーラム粒剤: 10kg、20kg /10a

(処理方法) BCI-221プロアブルは、植付6日前に所定濃度に希釈し所定量を背負式動力噴霧機(16倍は小型手動スプレー)を用いて全面散布し、直ちに小型管理機を用いて深さ約20cm土壤混和した。試験薬剤および対照薬剤のビーラム粒剤は、所定量を全面処理し、土壤混和した。

(処理時の作物のステージ) 植付6日前

(処理前後の降雨の影響) 試験期間中に降雨が認められたが、試験に影響はなかったと考える。

#### 試験期間中の気象条件

次頁に記載。

## 作物名

( 2024 ) 年度 委託

( しょうが )

対象病害虫名 ネコブセンチュウ類(サツマイモネコブセンチュウ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

月日	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	
平均気温(℃)	17.2	18.2	19.8	18.6	18.3	17.9	18.0	18.9	18.5	18.2	17.7	17.6	18.3	20.2	19.1	
降水量(mm)	0	3.5	0	0	0	2.5	15.0	6.5	8.0	4.0	0	0	5.0	0	26.0	
月日	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	
平均気温(℃)	20.9	17.7	17.1	18.1	18.9	19.6	20.0	20.6	17.4	15.4	16.8	20.0	20.1	18.1	17.9	
降水量(mm)	5.0	21.0	0	0	0	0	92.5	4.5	0	0	0	0	49.5	16.5	0	
月日	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	
平均気温(℃)	19.6	18.4	18.2	20.1	16.3	19.5	21.5	20.5	20.3	21.2	22.5	21.4	22.6	20.9	20.6	
降水量(mm)	0	0	0	0	10.0	0	0	0	0	0	0	0	11.5	163.5	0	
月日	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	
平均気温(℃)	20.5	19.0	20.0	21.2	20.3	21.0	20.3	20.3	21.8	21.5	19.2	20.7	22.3	23.1	23.8	
降水量(mm)	0	7.0	0	0	0	0	0	0	14.0	81.5	0	0	0	0	0	
月日	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	
平均気温(℃)	24.0	23.6	24.8	23.7	22.9	23.7	21.3	22.8	22.7	25.4	23.8	23.9	23.6	23.2	24.3	
降水量(mm)	0	0	0	5.5	84.5	0	7.5	19.5	27.5	4.5	7.0	3.0	1.5	8.0	23.0	
月日	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	
平均気温(℃)	25.0	25.9	25.7	26.9	27.9	28.1	28.7	29.2	28.5	28.7	28.4	27.3	24.3	25.6	25.1	
降水量(mm)	15.5	3.5	14.0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	130.5	19.5	3.0	
月日	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	
平均気温(℃)	25.4	25.4	26.1	27.4	27.4	28.7	29.5	29.1	29.1	29.6	29.3	28.9	28.2	29.2	29.2	
降水量(mm)	27.5	19.0	0	0	3.5	0	0	0	0	0	0	2.0	5.0	0	0	
月日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	
平均気温(℃)	30.3	31.1	31.1	29.7	30.0	30.1	29.4	29.6	29.5	29.4	29.6	29.6	29.6	29.1	29.0	
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21							
平均気温(℃)	29.5	29.4	29.4	30.6	29.9	29.5	25.2	28.2	29.1							
降水量(mm)	0	0	0	0	5.0	0.5	109.5	25.0	0							

観測地点: 場内観測データ

## 調査月日・方法

(調査月日) 薬効: 处理 3 日前 (4 月 15 日)、処理 125 日後 (8 月 21 日)

薬害: 5 月 22 日 (処理 34 日後)、5 月 29 日 (処理 41 日後)、6 月 5 日 (処理 48 日後)、8 月 21 日 (処理 125 日後)

(調査方法) 各区任意の 5 箇所の深さ約 15cm 付近より土壤を計約 500mL 採取し、よく混和した後にペールマン法(土壤 20g、22°C、48 時間分離、2 反復)により土壤中のネコブセンチュウ数を調査した。

また、処理 125 日後には各区 10 株の根部を掘り取り、根部の根こぶ寄生程度を調査し、下記の式を用いて根こぶ指数を算出した。

A:被害程度少(根こぶをわずかに認める)の株数

B:被害程度中(根こぶの形成が中程度)の株数

C:被害程度多(根こぶの数が多い)の株数

D:被害程度甚(根こぶの数多く、かつ大きい)の株数

N:調査株数 (10)

葉害は各調査日に出芽および茎葉について、8 月 21 日には根茎を肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。+++:重度の葉害症状を認める。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( しょうが )対象病害虫名 ネコブセンチュウ類(サツマイモネコブセンチュウ)  
試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

4月12日に、予めかんしょをプランターで栽培し、ネコブセンチュウを増殖させた汚染土壌(397.0頭/土壤20g)を各区に深さ15cm程の植溝を2条を掘り3L/区接種した。

処理時の土壤条件 地温(深さ15cm):19.5°C、含水率(湿度重量-乾土重量)/湿度重量×100:22.6%、pH:5.1

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	土壤20g当たりの ネコブセンチュウ数		根部の根こぶ寄生程度					葉害 5/22, 29, 6/5, 8/21	
			処理3日前 4月15日	処理125日後 8月21日	調査 株数	処理125日後(8月21日)					
						無	少	中	多	甚	
7) BCI-221プロアブル  既知化合物 400g/L Lot No.EFIC002564	400倍 100L/10a 植付6日前	I	1.5	0	10	9	1	0	0	0	2.5
		II	2.5	0	10	9	1	0	0	0	2.5
		III	4.0	0	10	10	0	0	0	0	—
	全面 土壤混和	平均	2.7	0							1.7
		密度指數	—	0							4.2
7) BCI-221プロアブル  既知化合物 400g/L Lot No.EFIC002564	200倍 50L/10a 植付6日前	I	2.5	0	10	9	1	0	0	0	2.5
		II	1.5	0	10	7	2	1	0	0	10.0
		III	1.0	0	10	9	1	0	0	0	2.5
	全面 土壤混和	平均	1.7	0							5.0
		密度指數	—	0							12.3
7) BCI-221プロアブル  既知化合物 400g/L Lot No.EFIC002564	16倍4L/10a 植付6日前	I	1.0	0	10	10	0	0	0	0	—
		II	1.0	0	10	10	0	0	0	0	—
		III	1.5	0	10	10	0	0	0	0	—
	全面 土壤混和	平均	1.2	0							0
		密度指數	—	0							0
147) ピーラム粒剤  フルオピラム 0.5% Lot No.PD24A00002	10kg/10a 植付6日前	I	1.0	0	10	7	2	1	0	0	10.0
		II	2.5	0	10	7	1	2	0	0	12.5
		III	1.0	0	10	9	1	0	0	0	2.5
	全面 土壤混和	平均	1.5	0							8.3
		密度指數	—	0							20.3
対) ピーラム粒剤  フルオピラム 0.5% Lot No.PD24A00002	20kg/10a 植付6日前	I	1.0	0	10	10	0	0	0	0	0.0
		II	3.0	0	10	9	1	0	0	0	2.5
		III	1.5	0	10	9	1	0	0	0	2.5
	全面 土壤混和	平均	1.8	0							1.7
		密度指數	—	0							4.2
無処理	—	I	1.0	2.5	10	4	2	3	1	0	27.5
		II	6.0	0	10	1	2	6	1	0	42.5
		III	2.5	0	10	0	1	7	2	0	52.5
	平均	平均	3.2	0.8							40.8
		密度指數	—	100							100

\* 根こぶ指数 =  $(A+2B+3C+4D)/4N \times 100$ 

A:被害程度少の株数、B:被害程度中の株数、C:被害程度多の株数、D:被害程度甚の株数、N:調査株数(10)

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( しょうが )

対象病害虫名 ネコブセンチュウ類 (サツマイモネコブセンチュウ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

#### 4. 考察

実用性の判定は、処理 125 日後の根こぶ指数の対無処理比を重視して行った。

7) BCI-221 フロアブル 400 倍希釈液 100L/10a 植付 6 日前全面散布土壤混和 BAA -

本剤の 400 倍希釈液 100L/10a 植付 6 日前全面土壤混和は、対照薬剤のビーラム粒剤 20 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和と比較して、同等の効果が認められた。無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

7) BCI-221 フロアブル 200 倍希釈液 50L/10a 植付 6 日前全面散布土壤混和 BAA -

本剤の 200 倍希釈液 50L/10a 植付 6 日前全面土壤混和は、対照薬剤のビーラム粒剤 20 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和と比較して、同等の効果が認められた。無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

7) BCI-221 フロアブル 16 倍希釈液 4L/10a 植付 6 日前全面散布土壤混和 BAA -

本剤の 16 倍希釈液 4L/10a 植付 6 日前全面土壤混和は、対照薬剤のビーラム粒剤 20 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和と比較して、同等の効果が認められた。無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

147) ビーラム粒剤 10 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和 CAA -

本剤の 10 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和は、対照薬剤のビーラム粒剤 20 kg/10a 植付 6 日前全面土壤混和と比較して、やや劣る効果が認められた。無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

## 作物名

( 2024 ) 年度 委託

( きく )

対象病害虫名 アブラムシ類(ワタアブラムシ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場 担当者氏名 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:フロイド 定植:2024年5月24日 栽植距離:畝間150cm×株間20cm 条間:40cm 2条植え

施設(POフィルム)栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の薬剤防除なし。

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6 m<sup>2</sup> (1.5m×2.4m) 24株 3連制

3-III	1-III	2-III
-------	-------	-------

3-II	1-II	2-II
------	------	------

1 SYJ-293SC 2 アドマイヤーフロアブル 3 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

2-I	3-I	1-I
-----	-----	-----

## 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年9月26日 (処理量) 278L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定濃度に希釈し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が良く濡れる様に散布した。

(作物のステージ) 生育期(草丈約70cm)

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響なし。

## 試験期間中の気象条件別

月日	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8
平均気温(℃)	29.4	30.2	28.2	26.6	26.6	28.4	27.5	26.1	24.6	26.8	29.3	28.9	26.3

観測地点:当該試験施設内

## 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(9月26日)、処理2日後(9月28日)、同7日後(10月3日)、処理12日後(10月8日)

(調査方法) 各区の任意に選んだ20シートの頂部を含んだ上位5葉に寄生する虫数を有翅・無翅別に調査した。

薬害は、各調査日に茎葉への薬害症状の有無について肉眼で観察し、以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

## その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

特になし。

## 作物名

( 2024 ) 年度 委託

( きく )

対象病害虫名 アブラムシ類(ワタアブラムシ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	20シート(頂葉部を含む5葉/シート)当たりの寄生虫数												薬害 9/29,10/3,8	
			処理前 (9/26)			処理2日後 (9/28)			処理7日後 (10/3)			処理12日後 (10/8)				
			有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計		
59) SYJ-293SC	I	0	183	183	1	141	142	7	65	72	5	22	27	—		
	3000倍	II	0	210	210	1	162	163	10	82	92	20	80	100	—	
	散布	III	0	132	132	5	128	133	13	72	85	12	104	116	—	
新規化合物 27.3%	計	0	525	525	7	431	438	30	219	249	37	206	243			
Lot No.SMU0KP0002	(補正密度指数)			(34.6)			(17.2)			(26.1)						
対) アドマイヤーフロアブル	I	1	145	146	2	1	3	6	2	8	12	19	31	—		
	2000倍	II	0	237	237	3	2	5	11	26	37	13	81	94	—	
	散布	III	2	268	270	1	0	1	21	20	41	19	70	89	—	
イミダクロブリド 20%	計	3	650	653	6	3	9	38	48	86	44	170	214			
	(補正密度指数)			(0.6)			(4.8)			(18.5)						
	I	0	176	176	7	451	458	9	386	395	12	164	176			
	II	0	66	66	6	158	164	19	382	401	34	287	321			
無処理	III	0	212	212	13	460	473	13	446	459	11	297	308			
	計	0	454	454	26	1069	1095	41	1214	1255	57	748	805			
	(補正密度指数)			(100)			(100)			(100)						

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、処理 7、12 日後の寄生幼虫数の補正密度指数の結果で行った。

試験後半、無処理区において天敵(主にヒラタアブ)の発生によりワタアブラムシの密度低下が認められた。

59) SYJ-293SC 3000 倍希釈液散布 CCC-

本剤の 3000 倍希釈液散布は、対照薬剤のアドマイヤーフロアブル 2000 倍希釈液散布と比較して効果はやや劣った。無処理区と比較して防除効果はやや低かった。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( きく )

対象病害虫名 ネキリムシ類 (タマナヤガ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場 担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所: 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:フロイド 定植:2024年5月17日 栽植距離:畝間80cm×株間15cm 条間40cm 2条植

露地栽培 土性:壤土 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。試験期間中の防除薬剤:なし

試験区の周囲はアゼ波シートで囲い、試験期間中、上部は不織布(パオパオ)を用いて被覆した。

区制・面積・試験区の構成 1区 1.2m<sup>2</sup> (0.8m × 1.5m) 16株 3連制

1-I	3-I	2-I	2-II	1-II	3-II	3-III	2-III	1-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

1: オルトラン粒剤 2: ガードベイトA 3: 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理月日) 2024年5月20日 (処理量) オルトラン粒剤: 6kg/10a、(対照薬剤) ガードベイトA: 3kg/10a

(処理方法) 何れの薬剤も株元に散布した。

(処理時の作物のステージ) 生育期(草丈約12cm)

(処理前後の降雨の影響) 試験に影響はなかった。

#### 試験期間中の気象条件

月日	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27
平均気温(℃)	19.5	21.5	20.5	20.3	21.2	22.5	21.4	22.6
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	11.5

観測地点:場内観測データ

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理1日後(5月21日)、同3日後(5月23日)、同5日後(5月25日)、同7日後(5月27日)

(調査方法) 各区の死亡・苦悶虫数を調査した。各区の被害株数及び被害程度別(無:被害なし、少:僅かな被害あり、多:顕著な被害あり)株数について調査し、下記により被害株率と被害度を算出した。

$$\text{被害株率}(\%) = (\text{被害株数}/\text{調査株数}) \times 100$$

$$\text{被害度} = A + 3B / 3N \times 100 \quad (A: \text{被害程度が少の株数}, B: \text{被害程度が多の株数}, N: \text{調査株数})$$

薬害は各調査日に茎葉について、肉眼で観察し、薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++: 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来・月日、詳細な方法を記載)

5月20日(薬剤処理後)に、各区中齢幼虫15頭を放虫した。供試虫は、日植防高知飼育個体群(2009年兵庫県内より採集)を用いた。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( きく )対象病害虫名 ネキリムシ類(タマナヤガ)  
試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

&lt;被害調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数 5/21	累積被害株数				被害程度			
				処理1日後 5/21	処理3日後 5/23	処理5日後 5/25	処理7日後 5/27	無	少	多	**被害度
88) オルトラン粒剤  アセフェート 5.0% 生育期 株元散布	6kg/10a	I	16	0	0	0	0	16	0	0	0
		II	16	0	2	2	2	14	2	0	4.2
		III	16	0	0	0	0	16	0	0	0
	Lot.No. OGB447A 対) ガードベイトA  ペルメトリン 0.1%	平均	16.0	0	0.7	0.7	0.7				1.4
		*被害株率(%)	0	4.4	4.4	4.4	4.4				
		対無処理比	0	21.4	16.4	16.4					15.6
無処理	3kg/10a 株元散布	I	16	0	0	0	0	16	0	0	0
		II	16	0	0	0	0	16	0	0	0
		III	16	0	1	1	1	15	1	0	2.1
	—	平均	16.0	0	0.3	0.3	0.3				0.7
		*被害株率(%)	0	1.9	1.9	1.9	1.9				
		対無処理比	0	9.2	7.1	7.1					7.8
無処理	—	I	16	0	5	7	7	9	7	0	14.6
		II	16	0	0	1	1	15	1	0	2.1
		III	16	0	5	5	5	11	5	0	10.4
	—	平均	16.0	0	3.3	4.3	4.3				9.0
		*被害株率(%)	0	20.6	26.9	26.9	26.9				
		対無処理比	100	100	100	100					100

\* 被害株率(%)=(被害株数/調査株数)×100

\*\* 被害度=(A+3B)/3N×100 (A:被害程度が少の株数、B:被害程度が多の株数、N:調査株数)

&lt;虫数調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数		累積死亡・苦悶虫数 5/21,23,25,27	薬害		
			処理直後 5/20	処理1~7日後 5/21~27				
88) オルトラン粒剤  対) ガードベイトA  無処理	6kg/10a 生育期 株元散布	I	15	10	—	—		
		II	15	3	—	—		
		III	15	2	—	—		
	3kg/10a 株元散布	計	45	15	—	—		
		I	15	8	—	—		
		II	15	4	—	—		
		III	15	4	—	—		
		計	45	16	—	—		
	—	I	15	0	—	—		
		II	15	0	—	—		
		III	15	0	—	—		
		計	45	0	—	—		

## 4. 考察

実用性の判定は、処理7日後の被害度の対無処理比を重視して行った。

88) オルトラン粒剤 6 kg/10a 生育期株元散布 CBB —

本剤の 6 kg/10a 生育期株元散布は、対照薬剤のガードベイト A 3 kg/10a 株元散布と比較して効果はやや劣つたが、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( きく )

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場 担当者氏名 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県香南市野市町深瀬本田 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:フロイド 定植:2024年5月24日 栽植距離:畝間150cm×株間20cm 条間:40cm 2条植え

施設(POフィルム)栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の薬剤防除なし。

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6 m<sup>2</sup> (1.5m×2.4m) 24株 3連制

2-III	3-III	1-III
-------	-------	-------

3-II	1-II	2-II
------	------	------

1 プロフレア SC 2 アクセルプロアブル 3 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

1-I	2-I	3-I
-----	-----	-----

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年9月9日 (処理量) 278L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定濃度に希釀し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が良く濡れる様に散布した。

(作物のステージ) 生育期(草丈約40cm)

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなし。

#### 試験期間中の気象条件

月日	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16
平均気温(℃)	30.2	30.3	30.3	30.3	30.6	31.3	30.3	31.8	31.1	31.3	31.1	29.0	29.8

観測地点:当該試験施設内

#### 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(9月9日)、処理2日後(9月11日)、同4日後(9月13日)、処理7日後(9月16日)

(調査方法) 各区10株の株全体に寄生する幼虫数を(若・中・老齢)別に調査した。

薬害は、各調査日に茎葉への薬害症状の有無について肉眼で観察し、以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他(特記する事項があれば記載)接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

9月4日(処理5日前)に各区1シート当たり1卵塊ずつ(計10卵塊)を接種した。調査開始時には葉への食害が認められ、定着を確認した。供試虫は、日植防高知飼育個体群(2020年土佐山田町ネギより採集)を用いた。

## 作物名

( 2024 ) 年度 委託

( きく )

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	10株当たりの寄生幼虫数												薬害 9/11、13、16	
			処理前 (9/9)				処理2日後 (9/11)				処理4日後 (9/13)					
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計		
157) プロフレアSC	I	5	22	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	4000倍 散布	II	17	38	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		III	8	13	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	プロフランリット' 5%	計	30	73	0	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Lot No.33F70007	(補正密度指数)														(0)	
対) アクセルフロアブル	I	15	19	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	1000倍 散布	II	16	14	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		III	18	21	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	メタフルミゾン' 25.0%	計	49	54	0	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(補正密度指数)														(0)	
		I	19	18	0	37	2	30	0	32	0	11	0	11	0	
		II	23	10	0	33	2	17	0	19	0	6	0	6	0	
		III	17	14	0	31	3	14	0	17	0	7	0	7	0	
無処理	-	計	59	42	0	101	7	61	0	68	0	24	0	24	0	
	(補正密度指数)														(100)	
															(100)	
															(100)	

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、処理2、4日後の寄生幼虫数の補正密度指数の結果で行った。

157) プロフレア SC 4000倍希釈液散布 BAA-

本剤の4000倍希釈液散布は、対照薬剤のアクセルフロアブル 1000倍希釈液散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。 実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

(2024)年度委託

作物名  
(きく)

対象病害虫名・学名 ハスモンヨトウ (*Spodoptera litura*)

試験場名 高知大(生理)

担当者氏名 手林慎一

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県南国市物部 高知大学 物部キャンパス

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:寒菊小菊(スプレータイプ:紅車、寒小金、寒秋月) 1区8株に紅車4株、寒小金2株、寒秋月2株を配置した

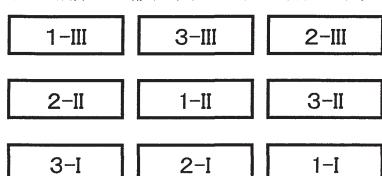
定植:2023年10月16日、切り戻し:2024年3月24日

栽植密度など: 納間100cm(納幅50cm) 株間40cm 1条植、施肥その他の一般管理は慣行に準じた。ビニールハウス栽培

土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:無使用

区制・面積 1区 3.2m<sup>2</sup> (1.0 × 3.2m) 8株 3連制

試験区の構成 (横方向に一畠: 各区の間は0.8mの間隔を開けた)



1. 無処理区, 2. 対照区(マッチ乳剤), 3. サイモディスDC I, II, IIIは連制を示す

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージ

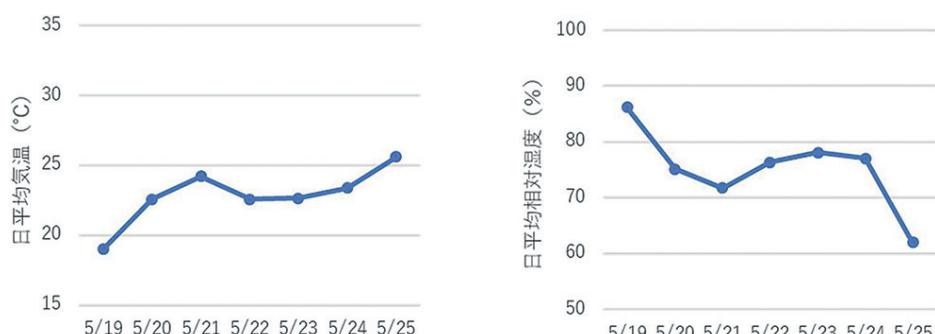
(処理年月日) 処理:2024年5月19日

(処理方法) サイモディスDCは2500倍希釈溶液を、マッチ乳剤は2000倍希釈溶液を蓄圧式ハンディースプレーで葉の表裏が濡れるように十分散布した。

(処理量) サイモディスDC:104L/10a; マッチ乳剤: 104L/10a

(作物のステージ) 生育期 (40cm)

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨による影響は無かったと思われる。



観測地点: 試験ビニールハウス

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理前(5月19日)、1日後(5月20日)、3日後(5月22日)、6日後(5月25日)

(調査方法) 各株任意の3茎に寄生する幼虫を若齢・中齢・老齢別に調査した。また、試験開始前と試験終了後に各株任意の3茎の被害葉の数をその程度と共に数えた。葉害は茎葉部を対象に各調査日に肉眼で確認した。

-: 葉害を認めない。 +: 軽微な葉害症状を認める。 ++: 中程度の葉害症状を認める。 +++: 重度の葉害症状を認める。

#### その他

ハスモンヨトウ初齢幼虫を5/17に株あたり約30頭(A群)を、5/18に株あたり約30頭(B群)を放虫した。A群は孵化後にキクの葉で飼育した個体群であり、B群は孵化後に人工飼料で飼育した個体群である。またA群、B群ともに日本植物防疫協会高知試験場から分与を受けた個体群(2023年10月に日植防高知試験場のはくさいより採集した累代飼育した個体群)を用いた。

(2024)年度委託

作物名

(きく)

対象病害虫名・学名 ハスモシヨトウ (*Spodoptera litura*)

試験場名 高知大(生理)

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分・量 Lot. No.	使用 条件	連制	24茎当たりの寄生虫数											
			処理前 (5/19)			処理1日後 (5/20)			処理3日後 (5/22)			処理6日後 (5/25)		
			若齢 幼虫	中齢 幼虫	老齢 幼虫	若齢 幼虫	中齢 幼虫	老齢 幼虫	若齢 幼虫	中齢 幼虫	老齢 幼虫	若齢 幼虫	中齢 幼虫	老齢 幼虫
106) サイモディスDC イソシクロセラム:9.3 % Lot: JAK3C15001	2500 倍 希釈 散布	I	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		平均	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		幼虫合計	72			0			0			0		
対) マッチ乳剤 ルフェヌロン 5.0% Lot: JAK3C15001	2000 倍 希釈 散布	I	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		平均	37.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		幼虫合計	113			0			0			0		
無処理		I	39	0	0	13	0	0	3	0	0	0	0	0
		II	44	0	0	19	0	0	9	0	0	0	1	0
		III	51	0	0	13	0	0	9	0	0	0	0	0
		平均	44.7	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
		幼虫合計	134			45			21			1		

供試薬剤 有効成分・量 Lo. No.	使用 条件	連制	24茎当たりの被害葉数				薬害	
			処理前 (5/19)		処理6日後 (5/25)			
			被害大	被害少	被害大	被害少		
106) サイモディスDC イソシクロセラム:9.3 % Lot: JAK3C15001	2500 倍 希釈 散布	I	3	27	3	28	—	
		II	0	35	0	36		
		III	0	68	0	62		
		平均	1.0	43.3	1.0	42.0		
		合計	3	130	3	126		
対) マッチ乳剤 ルフェヌロン 5.0% Lot: JAK3C15001	2000 倍 希釈 散布	I	2	36	2	39	—	
		II	0	74	0	78		
		III	0	26	0	26		
		平均	0.7	45.3	0.7	47.7		
		合計	2	136	2	143		
無処理		I	2	40	3	59		
		II	4	56	6	77		
		III	0	23	5	33		
		平均	2.0	39.7	4.7	56.3		
		合計	6	119	14	169		

4. 考察 判定は第1回処理1,3日後の幼虫の補正密度指数で行った。

106) サイモディスDC 2500倍希釈散布 BAA-

本剤の2500倍希釈散布は、対照のマッチ乳剤の2000倍希釈散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( きく )

対象病害虫名 コガネムシ類 (幼虫: ドウガネブイブイ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所: 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:フロイド 鉢上げ:2024年4月8日(直径7.5cmポリポット) 定植:7月30日 栽植距離:畝間150cm×株間25cm

条間40cm 2条植 露地栽培 土性:壤土 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 4.5m<sup>2</sup> (1.5m × 3.0m) 24株 3連制

1-I	2-I	2-II	1-II	1-III	2-III
-----	-----	------	------	-------	-------

1:オルトラン粒剤

2:無処理

I、II、IIIは連制を示す。試験区境の緩衝区は1m

#### 処理年月日・量・方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理月日) 2024年9月19日 (処理量) 6kg/10a

(処理方法) オルトラン粒剤は、株元に所定量を株元散布した。処理後、手灌水した。

(処理時の作物のステージ) 生育期(草丈約30cm)

(降雨の影響) 試験に影響はなかったと考える。

#### 試験期間中の気象条件

月日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2
平均気温(℃)	28.6	28.7	28.8	27.7	26.2	24.4	24.1	24.2	25.0	26.2	25.8	24.5	23.9	24.1	23.7
降水量(mm)	0	0	3.5	42.0	12.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.5

観測地点:場内観測データ(但し10/1、2は南国日章アメダスデータ)

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理7日後(9月26日:薬害のみ)処理13日後(10月2日)

(調査方法) 各区10株の根部を掘取り、寄生幼虫数と根部の被害程度別(無:被害なし、少:僅かな被害あり、多:顕著な被害あり)株数について調査し、下記により被害株率と被害度を算出した。

$$\text{被害株率}(\%) = (\text{被害株数} / \text{調査株数}) \times 100$$

$$\text{被害度} = (A+3B) / 3N \times 100 \quad (A: \text{被害程度が少の株数}, B: \text{被害程度が多の株数}, N: \text{調査株数})$$

薬害は、各調査日に茎葉について、肉眼で観察し、以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来・月日、詳細な方法を記載)

9月18日(処理前日)に、各区10株の株元(定植時に設置したネットの内側)に1・2齢幼虫を2頭ずつ(計20頭)放虫した。

供試きく苗は、プラスチック製水切りネットの底部に、コガネムシ幼虫の定着を促すための腐葉土を100ml程度詰めたもの中に定植した。なお、供試虫は、場内に設置したライトトラップで採集したドウガネブイブイ成虫を飼育し、産卵させて得られた個体。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( きく )

対象病害虫名 コガネムシ類 (幼虫:ドウガネブイブイ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

&lt;被害調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	被害株数		被害程度			
				処理13日後 10/2		処理13日後 10/2			
				無	少	多	**被害度		
88) オルトラン粒剤 アセフェート 5.0% 6kg/10a 生育期 株元散布	I	10	1	9	1	0	3.3		
	II	10	0	10	0	0	0		
	III	10	0	10	0	0	0		
	平均	10.0	0.3	I.I					
	*被害株率(%)		3.0						
Lot.No. OGB447A				対無処理比		5.3	3.4		
無処理	I	10	6	4	2	4	46.7		
	II	10	5	5	3	2	30.0		
	III	10	6	4	6	0	20.0		
	平均	10.0	5.7	32.2					
	*被害株率(%)		57.0						
対無処理比				100		100			

\*被害株率(%)=(被害株数／調査株数)×100

\*\*被害度=A+3B／3N×100 (A:被害程度が少の株数、B:被害程度が多の株数、N:調査株数)

&lt;虫数調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	10株当たりの虫数		薬害	
			放虫数 (1・2齢幼虫)	寄生幼虫数 (2・3齢幼虫)		
88) オルトラン粒剤 6kg/10a 生育期 株元散布		—	処理前 9/18	処理13日後 10/2	9/26, 10/2	
			I	20	—	
			II	20	—	
			III	20	—	
			計	60	1	
(密度指數)				9.1		
無処理		—	I	20	7	
			II	20	1	
			III	20	3	
			計	60	11	
			(密度指數)		100	

## 4. 考察

同様の処理方法による登録薬剤が無かったため、対照薬剤区は設置しなかった。

実用性の判定は、処理 13 日後の被害度の対無処理比を重視して行った。

88) オルトラン粒剤 6 kg/10a 生育期株元散布 —AA—

本剤の 6 kg/10a 生育期株元散布は、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2022 ) 年度 委託

作物名

( きく )

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型)

試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 田村 悠

**1. 試験目的** 防除効果及び薬害の検討

**2. 試験方法** 試験地場所 高知県南国市廿枝 1100 高知県農業技術センター

**対象病害虫発生状況** 少発生(放虫)

**耕種概要** (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 'セイレウカ' 定植日: 2023年7月18日 施設(プラスチックハウス)栽培

栽植距離: 穴幅 150cm、株間 20cm、条間 30cm、2 条千鳥植え 各区の間に 1m の緩衝地帯(定植なし)を設けた。

土性: 灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

**区制・面積・試験区の構成** 面積 2a(PO フィルム) 1 区 3.6 m<sup>2</sup> (2.4m × 1.5m) 22 株、3 連制

1 - I	2 - I	3 - I
2 - II	3 - II	1 - II
3 - III	1 - III	2 - III

1:エコマイト顆粒水和剤 2:コロマイト乳剤 3:無処理 I II IIIは連制を示す。

**処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響**

(処理年月日) 2023年10月25日

(処理時の作物のステージ) 生育後期、草丈約 100cm

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を肩掛け式手動散布機を使用して、10a当たり約 278L 敷布した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内栽培のため降雨による影響はなかった。

**試験期間中の気象条件**

月日	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8
平均温度 (°C)	20.9	20.6	18.5	19.8	21.0	20.1	20.9	19.9	19.9	20.8	21.2	22.5	23.5	22.7	20.3

観測地点: 試験施設内の地上約 150cm にデータロガー(TR-72wb)を設置し、60 分間隔で測定した。

**調査月日・方法** (月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 敷布前(10月25日)、敷布3日後(10月28日)、敷布7日後(11月1日)、敷布14日後(11月8日)、

(調査方法) 薬効は、各区11株について任意の30葉に寄生する雌成虫を肉眼で調査した。

薬害は、茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++: 重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・詳細な方法を記載)

2023年10月18日に高知県須崎市のミョウガから採取したナミハダニ(黄緑型)個体群を、10月19日にミョウガ葉をキク葉上に設置する方法で1区あたり雌成虫約200頭接種した。

( 2022 ) 年度 委託

作物名

( きく )

対象病害虫名・学名

ハダニ類(ナミハダニ黄緑型)

試験場名 高知県農業技術センター

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 散布 散布	330葉あたりの雌成虫数				薬害 10/28、 11/1、 11/8
		散布前 10月25日	散布3日後 10月28日	散布7日後 11月1日	散布14日後 11月8日	
89) エコマイト顆粒水和剤 スピジクロフェン:38.0% Lot No.25.10 42202	I 2,000倍 散布	16 34 3	3 6 0	6 11 2	5 13 5	— — —
	計 (補正密度指数)	53	9 (13.2)	19 (22.5)	23 (21.2)	
対) コロマイト乳剤 ミルベメクチン:1.0%	I 1,500倍 散布	12 12 36	3 3 8	10 13 5	9 16 8	— — —
	計 (補正密度指数)	60	14 (18.1)	28 (29.2)	33 (26.9)	
無処理	I II III —	42 13 7	51 18 11	53 27 19	56 41 30	
	計 (補正密度指数)	62	80 (100)	99 (100)	127 (100)	

## 4. 考察

実用性の判定は、散布3、7、14日後の補正密度指数より行った。

89) エコマイト顆粒水和剤 2,000倍希釈液 ACC-

本剤の2,000倍希釈液散布は、対照剤のコロマイト乳剤1,500倍希釈液散布と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して防除効果は認められたものの、その程度はやや低かった。防除効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( ばら )

対象病害虫名・学名 アブラムシ類(イバラヒゲナガアブラムシ, *Sitobion ibarae*)

試験場名 高知大(生理) 担当者氏名 手林慎一

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県南国市 高知大学 物部キャンパス

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

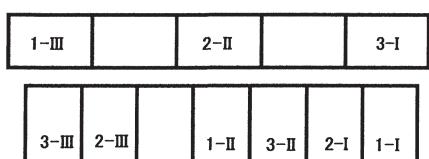
品種:不詳(ミニバラ:スプレー咲) 鉢上:2024年4月5日(72株、各区8株分), 2024年6月3日(18株、各区2株分)

栽植密度など: 15cm ポット、施肥その他の一般管理は慣行に準じた 施設栽培

土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:無使用

区制・面積 1区 10株 3連制

試験区の構成 下図のようにトレー(60cm x 40cm)を配置し、各トレーの上に10個のポットを設置した。



1. 無処理区, 2. 対照区 (エコピタ液剤), 3. ピタイチ I, II, III は連制を示す

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージ

(処理年月日) 2023年6月10日

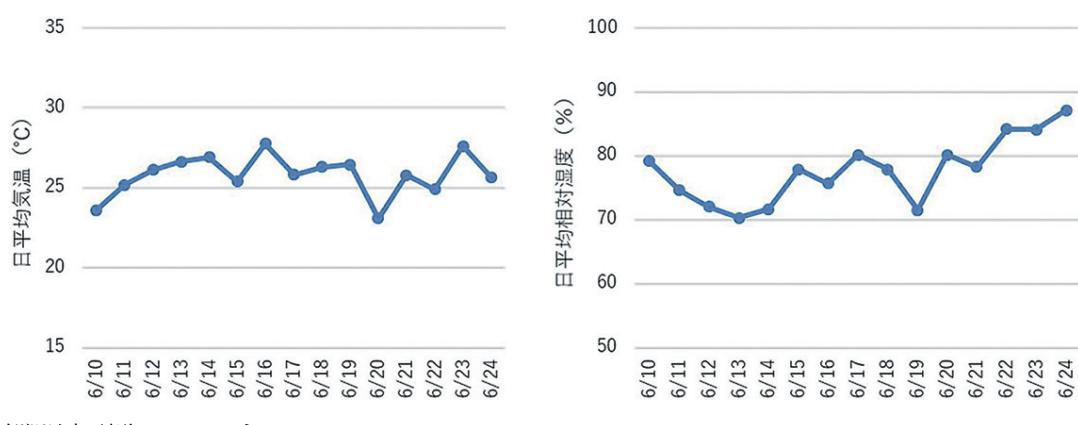
(処理方法) ピタイチおよびエコピタ液剤は500倍希釈溶液を蓄圧式ハンディースプレーで葉の表裏が濡れるように十分散布した。

(処理量) ピタイチ (1回目) 33.3mL/ポット, (2回目) 33.3mL/ポット

エコピタ液剤: (1回目) 33.3mL/ポット, (2回目) 33.3mL/ポット

(作物のステージ) 開花期(30cm)

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨による影響は無かったと考えられる。



観測地点: 試験ビニールハウス

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理前(6月10日)、3日後(6月13日)、7日後(6月17日)、10日後(6月20日)、14日後(6月24日)

(調査方法) 各区10株すべての任意の3茎頂に寄生する虫数を有翅虫、無翅虫別に調査した。薬害は茎葉と花を対象に、散布時と各調査日に肉眼で確認した。薬害症状は以下のとおり判別した。

-: 薬害を認めない。 +: 軽微な薬害症状を認める。 ++: 中程度の薬害症状を認める。 +++: 重度の薬害症状を認める。

#### その他

イバラヒゲナガアブラムシを5/23~5/27にかけて、72株(各区8株分:ポットA群)に対して、ポットあたり約100頭を放虫した。また18株(各区2株分:ポットB群)に対しては5/31にポットあたり約50頭を放虫した。イバラヒゲナガア布拉ムシは高知大学物部キャンパス内に自生するイバラに寄生していた個体群を採集して用いた。

1試験区にはA群のポット8株とB群のポット2株を配置した。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

(ばら)

対象病害虫名・学名 アブラムシ類(イバラヒゲナガアブラムシ, *Sitobion ibarae*)

試験場名 高知大(生理)

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分・量 Lo. No.	使用 条件	連制	30茎当たりの寄生虫数										葉害 6/13 6/17 6/20 6/24	
			第1回処理前 6/10		第1回処理3日後 6/13		第1回処理7日後 第2回処理前 6/17		第1回処理10日後 第2回処理3日後 6/20		第1回処理14日後 第2回処理7日後 6/24			
			有翅虫	無翅虫	有翅虫	無翅虫	有翅虫	無翅虫	有翅虫	無翅虫	有翅虫	無翅虫		
145) ピタイチ  グリセリン酸脂 肪酸エチル:50.0%  Lot: 4DA01	500倍 希釈 散布	I	12	87	2	47	0	73	1	10	0	8	—	
		II	5	164	0	19	0	48	0	16	0	8	—	
		III	4	106	2	31	1	42	1	11	1	14	—	
		平均	7.0	119.0	1.3	32.3	0.3	54.3	0.7	12.3	0.3	10.0	—	
		合計	378		101		164		39		31		—	
対) エコピタ液 剤  還元澱粉糖化物 : 60.0%	500倍 希釈 散布	補正密度指数*			31.4		65.2		19.8		21.8		—	
		I	8	282	1	72	0	80	0	10	1	6	—	
		II	7	171	2	36	2	22	0	13	0	7	—	
		III	11	155	0	36	3	46	1	16	0	11	—	
		平均	8.7	202.7	1.0	48.0	1.7	49.3	0.3	13.0	0.3	8.0	—	
		合計	634		147		153		40		25		—	
		補正密度指数*			27.2		36.2		12.1		10.5		—	
無処理		I	15	112	6	93	3	68	2	46	2	32	—	
		II	1	163	4	100	0	80	0	69	0	47	—	
		III	0	134	14	145	0	132	0	104	0	79	—	
		平均	5.3	136.3	8.0	112.7	1.0	93.3	0.7	73.0	0.7	52.7	—	
		合計	425		362		283		221		160		—	

\* 有翅虫と無翅虫の合計から算出した補正密度

4. 考察 判定は第1回処理 10, 14 日後の補正密度で行った。

145) ピタイチ 500倍希釈 2回散布 CCC-

本剤の500倍希釈2回散布は、対照のエコピタ液剤の500倍希2回散布と比較してやや劣る効果を示し、無処理区と比較して効果が認められたがその程度は低かった。実用性はやや低いがあると考えられる。葉害は認められなかった。

( 2023 ) 年度 委託

作物名  
( シキミ )

対象病害虫名 サビダニ類(シキミハリナガフシダニ(仮称))

試験場名 高知県立森林技術センター

担当者氏名 藤本 浩平

### 1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

### 2. 試験方法 試験地場所 室戸市吉良川町甲 室戸市有林

対象病害虫発生状況 中発生

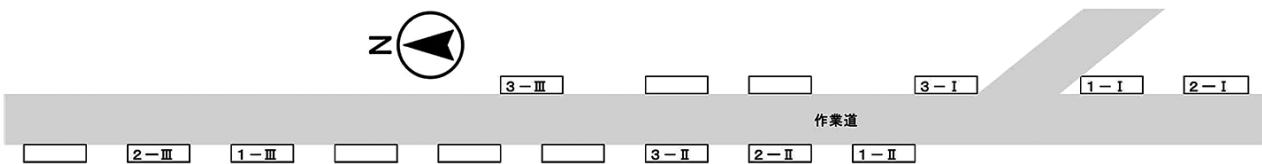
#### 耕種概要

土性:弱乾性褐色森林土壤(Bc型)。樹齢:1989~1990年に実生苗が植栽され、約35年生と推察される。露地栽培

試験期間中の防除薬剤:20年以上は薬剤防除および施肥が行われていない。

区制・面積・試験区の構成 1区3本(約3m<sup>2</sup>)で3連制

試験区の構成



1: ハチハチ乳剤 2: ピラニカEW 3:無処理区 I II IIIは連制を示す。

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2023年10月17日

(処理方法) 背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

散布量は、ハチハチ乳剤:2.1ℓ/区(700ℓ/10a相当)、ピラニカEW:2.1ℓ/区(700ℓ/10a相当)である。

(処理前後の降雨影響)

処理日から6日後までは降雨はなく、7日後に降雨があったが、虫数計測サンプルの採取後であった。

また、9~14日後の降雨はなく、虫数の調査には降雨の影響はなかったと思われる。

#### 試験期間中の気象条件

年月日	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21
平均気温(℃)	19.6	20	19.3	18.5	19.7	19.5	20	20.5	21.2	20.2	16.3
降水量(mm)	0	0	0	6.5	0	0	0	0	0	0	0
備考					発生確認		処理日			調査日	
年月日	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	
平均気温(℃)	16.4	18.6	18.7	19.1	19.2	18.9	18.1	16.4	17.5	18.1	
降水量(mm)	0	0	7	0.5	0	0	0	0	0	0	
備考					調査日				調査日		

観測地点:高知県室戸岬アメダスデータ

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理前(10月17日)、3日後(10月20日)、7日後(10月24日)、14日後(10月31日)

(調査方法) 薬効は、試験区より20葉を任意に採取し、実体顕微鏡で葉裏に寄生するサビダニの幼虫数・成虫数を計測した。

評価のために各区の補正密度指数を次式により算出した。

$$\text{補正密度指数} = (\text{処理区の○日後密度} \div \text{処理区の散布前密度}) \times 100$$

× (無処理区の散布前密度 : 無処理区の○日後密度) × 100

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他

本試験地ではシキミハリナガフシダニ(仮称)の発生のみ確認され、シキミサビダニ(仮称)の発生は確認されなかった。

( 2023 ) 年度 委託

作物名

( シキミ )

対象病害虫名 サビダニ類(シキミハリナガフシダニ(仮称))

試験場名 高知県立森林技術センター

### 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	20葉あたり虫数												薬害		
			10月17日			10月20日			10月24日			10月31日					
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	10月20日	10月17日	10月20日
138) ハチハチ乳剤		I	5	43	48	0	0	0	0	8	8	0	0	0	-	-	-
トルフェンピラド15.0%	2,000倍	II	14	40	54	0	4	4	0	0	0	0	10	10	-	-	-
Lot. 2A98	散布	III	0	22	22	0	0	0	0	4	4	0	5	5	-	-	-
		合計	19	105	124	0	4	4	0	12	12	0	15	15			
		補正密度指数				0.0	3.9	2.6	0.0	12.0	8.6	0.0	14.8	12.3			
対照 ピラニカ EW		I	4	29	33	0	5	5	0	8	8	0	7	7	-	-	-
テブフェンピラド10.0%	1,000倍	II	0	27	27	0	0	0	0	0	0	0	6	6	-	-	-
	散布	III	21	67	88	0	0	0	0	5	5	0	10	10	-	-	-
		合計	25	123	148	0	5	5	0	13	13	0	23	23			
		補正密度指数				0.0	4.2	2.7	0.0	11.1	7.8	0.0	19.3	15.8			
無処理区		I	4	41	45	17	51	68	19	35	54	8	53	61	-	-	-
		II	9	43	52	12	31	43	2	31	33	3	38	41	-	-	-
		III	0	40	40	21	38	59	15	52	67	4	29	33	-	-	-
		合計	13	124	137	50	120	170	36	118	154	15	120	135			
		補正密度指数				100	100	100	100	100	100	100	100	100			

### 4. 考察

本試験地ではシキミハリナガフシダニ(仮称)の発生のみ確認された。実用性は、処理3日後および7日後での補正密度指数で判定した。

#### 138) ハチハチ乳剤 2000倍 散布 BAA-

本剤処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区と比べて高い防除効果が認められた。実用性は高いと認められる。薬害は全処理木で認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( シキミ )

対象病害虫名 サビダニ類(シキミハリナガフシダニ(仮称))

試験場名 高知県立森林技術センター

担当者氏名 藤本 浩平

### 1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

### 2. 試験方法 試験地場所 室戸市吉良川町甲 室戸市有林

対象病害虫発生状況 中発生

#### 耕種概要

弱乾性褐色森林土壤(Bc型)である。1989~1990年に実生苗が植栽され、約35年生と推察される。露地栽培で、20年以上は薬剤防除および施肥が行われていない。

区制・面積・試験区の構成 1区3本(約3m<sup>2</sup>)で3連制

試験区の構成



1: ハチハチ乳剤 2: ピラニカEW 3:無処理区 I II IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年9月18日

(処理方法) 背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

散布量は、ハチハチ乳剤:2.1ℓ/区(700ℓ/10a相当)、ピラニカEW:2.1ℓ/区(700ℓ/10a相当)である。

(処理前後の降雨影響)

9/14夜から9/16未明にかけて断続的に降雨があり、9/17は深夜から未明にかけて降雨があった。9/18は未明に降雨があったが、処理直前のサンプル採取時には供試木の枝葉は乾燥しており、降雨の直接的な影響はみられなかった。

処理日から71時間の降雨はなく、3日後の調査日である9/21は未明に3.5mm、サンプル採取後の夜に2mmの降雨があった。7日後のサンプル採取前の60時間は降雨がなく、供試木の枝葉は乾燥していた。9/30は午前中に4mmの降雨があったが、14日後のサンプル採取前の46時間は降雨がなく、供試木の枝葉は乾燥していた。

#### 試験期間中の気象条件

年月日	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23
平均気温(℃)	26.6	26	27.4	26.5	27.3	27.8	27.7	27	24.4	23.4
降水量(mm)	13.5	43.5	1	6	1	0	0	5.5	70.5	0
備考				発生確認	処理日			調査日		
年月日	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3
平均気温(℃)	23.6	23.6	24.5	25.4	25.3	24.1	22.7	24.2	24.2	23
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	4	0	11	39.5
備考			調査日					調査日		

観測地点:高知県室戸岬アメダスデータ

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理前(9月18日)、3日後(9月21日)、7日後(9月25日)、14日後(10月2日)

(調査方法) 薬効は、試験区より20葉を任意に採取し、実体顕微鏡で葉裏に寄生するサビダニの幼虫数・成虫数を計測した。

評価のために各区の補正密度指標を次式により算出した。

補正密度指標=(処理区の○日後密度÷処理区の散布前密度)

×(無処理区の散布前密度÷無処理区の○日後密度)×100

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( シキミ )

対象病害虫名 サビダニ類(シキミハリナガフシダニ(仮称))

試験場名 高知県立森林技術センター

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

#### その他

本試験地ではシキミハリナガフシダニ(仮称)の発生のみ確認され、シキミサビダニ(仮称)の発生は確認されなかった。

### 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	20葉あたり虫数												薬害		
			9月18日			9月21日			9月25日			10月2日					
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	9月21日	9月25日	10月2日
143) ハチハチ乳剤 トルフェンピラド15.0% Lot. 2A98	2,000倍 散布	I	5	30	35	0	5	5	0	0	0	0	8	8	-	-	-
		II	5	21	26	0	0	0	0	5	5	3	6	9	-	-	-
		III	2	19	21	0	0	0	0	0	0	0	5	5	-	-	-
		合計	12	70	82	0	5	5	0	5	5	3	19	22			
		補正密度指数				0.0	5.8	5.4	0.0	5.9	4.8	37.5	28.5	29.2			
対照 ピラニカEW テブフェンピラド10.0% 1,000倍 散布	散布	I	5	19	24	0	5	5	0	7	7	3	10	13	-	-	-
		II	4	17	21	0	0	0	0	10	10	0	0	0	-	-	-
		III	7	21	28	0	3	3	0	0	0	0	7	7	-	-	-
		合計	16	57	73	0	8	8	0	17	17	3	17	20			
		補正密度指数				0.0	11.4	9.6	0.0	24.8	18.3	28.1	31.3	29.9			
無処理区		I	5	21	26	3	31	34	5	30	35	2	24	26	-	-	-
		II	2	19	21	0	21	21	3	27	30	2	16	18	-	-	-
		III	2	24	26	1	27	28	8	20	28	2	21	23	-	-	-
		合計	9	64	73	4	79	83	16	77	93	6	61	67			
		補正密度指数				100	100	100	100	100	100	100	100	100			

### 4. 考察

本試験地ではシキミハリナガフシダニ(仮称)の発生のみ確認された。実用性は、処理3日後、7日後および14日後での補正密度指数で判定した。

143) ハチハチ乳剤 2000倍散布 BAA-

本剤処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区と比べて高い防除効果が認められた。実用性は高いと認められる。薬害は全処理木で認められなかった。

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 香川県農業試験場 病虫・環境研究課 担当者氏名 松本匠哉、川田千瑛

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 香川県綾歌郡綾川町(農業試験場内圃場)

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:若殿 播種:2024年8月20日、定植:2024年10月1日

栽植密度:畠幅150cm 条間30cm 株間13cm 3条植え 施肥および一般管理は慣行に準じ、露地栽培した。

土性:灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.0 m<sup>2</sup> (2×1.5m) 45株 3連制

A-I	B-I	C-I	B-II	C-II	A-II	C-III	A-III	B-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

A:ヨーバルプロアブル(200倍) B:対 ベリマークSC(400倍) C:無処理

I、II、IIIは連制を示す

**処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響**

(処理年月日) 2024年9月24日(ヨーバル)、10月1日(ベリマーク) (作物のステージ) 育苗～定植期(草丈10cm)

(処理方法) 定植前の苗に、1セルトレイあたり0.5Lを育苗トレイ灌注処理用散布器で散布。

(処理前後の降雨) 試験に対する降雨の影響はなかったと考える。

月日	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14
平均気温(℃)	24.1	22.1	20.6	20.5	21.5	22.3	21.7	18.9	19.8	19.2	18.0	17.6	19.1	20.9
降水量(mm)	0.0	6.0	15.0	8.5	0.5	0.0	14.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

月日	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28
平均気温(℃)	21.8	21.6	22.6	23.3	20.9	16.7	18.7	19.2	20.4	17.5	18.9	18.1	20.6	17.6
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.5	3.5	0.0	0.0	0.0	2.0	7.0

観測地点:香川県滝宮のアメダスデータ

**調査月日・方法** (月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 定植6日後(10月7日)、定植14日後(10月15日)、定植20日後(11月17日)、定植27日後(10月28日)

(調査方法) 見取り調査については、各処理区10株全葉における生存虫数(幼虫)を調査した。植物体の解体調査については、

処理27日後において各試験区10株抜き取り解体し、植物体内の生存虫数(幼虫)を調査した。

薬害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

2024年に場内で採取したシロイチモジヨトウを飼育し、得られた卵塊を用いた。10月1日および10月9日に1調査区当たり3卵塊ずつ放虫した。

(2024) 年度 委託

作物名

(ねぎ)

対象病害虫名・学名 シロイチモジヨトウ

試験場名 香川県農業試験場 病虫・環境研究課

### 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名 Lot No.	希釈 倍数	連制	見取り調査(10株あたりの生存虫数)												解体調査(10株あたりの生存虫数) 定植27日後 10/28 0/21,10/28	薬害 10/7,10/15,1 —		
			定植6日後 10/7			定植14日後 10/15			定植20日後 10/21			定植27日後 10/28						
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計				
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計				
178) ヨーバルフロアブル テクノリブ 0-4: 18.2%	200倍 Lot. No. 06214 定植7日前 0.5L/育苗トレイ 灌注	I 区 II 区 III 区 合計	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 4 0 4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 2 0 3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 40 0 0 40	— — —	—										
対) ベリマーク SC シクトリブ 0-4 : 18.7%	400倍 定植時 0.5L/育苗トレイ 灌注	I 区 II 区 III 区 合計	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	— — —	—									
無処理		I 区 II 区 III 区 合計 密度指數	3 0 0 3 0 0 0 9 2 0 11 0 11 1 12	1 0 0 1 3 0 0 3 8 0 0 8 2 2 1 5	0 0 0 0 0 0 0 5 3 0 8 5 4 3 12	4 0 0 4 3 0 0 3 22 5 0 27 7 17 5 29	— 100 100 100	0 4 0 4										

### 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、定植 20 日後、定植 27 日後の密度指数により行った。

178) ヨーバルフロアブル 200 倍 0.5L/育苗トレイ 灌注 CBB-

本剤 200 倍希釈、定植 7 日前育苗トレイ灌注は、対照のベリマーク SC 400 倍希釈、定植時育苗トレイ灌注と比較して効果はやや劣り、無処理と比較して効果は認められた。実用性はあると考えられる。本剤の散布による薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

(メロン)

対象病害虫名・学名 アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ) • *Frankliniella occidentalis*

試験場名 高知大(生理)

担当者氏名 手林慎一, 竹村泰雄, 竹中由布

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県南国市物部 高知大学 物部キャンパス

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:タイガーメロン 定植:2024年6月14日

栽植密度など: 穴間 100 cm (畝幅 60 cm) 株間 40 cm, 1 条植、施肥その他の一般管理は慣行に準じた。露地栽培。

土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:無使用

区制・面積 1 区 4.0 m<sup>2</sup> (1.0 × 4.0m) 1 区 10 株 3 連制

試験区の構成 (横方向に一畝)

1. 無処理区

3-I	2-I	1-I
2-II	1-II	3-II
1-III	3-III	2-III

2. 対照区(ディアナSC)

3. マッチ乳剤

I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージ

(処理年月日) 処理:2024年6月17日

(処理方法) マッチ乳剤は2000倍希釈溶液を、ディアナSCは2500倍希釈溶液を、蓄圧式ハンディースプレーで葉の表裏が濡れるように十分散布した。

(処理量) マッチ乳剤: 80L/10a, ディアナSC : 80L/10a

(作物のステージ) 生育期 (25m)

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨は無く処理への影響は無かった。(6/17の降雨は日没後)



観測地点: 日章アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 処理前(6月17日)、3日後(6月20日)、7日後(6月24日)、15日後(7月2日)

(調査方法) 各株全体に寄生する虫数を成虫・幼虫別に調査した。薬害は各調査日に肉眼で確認した。

ー: 薬害を認めない。 +: 軽微な薬害症状を認める。 ++: 中程度の薬害症状を認める。 +++: 重度の薬害症状を認める。

その他

5/24 にミカンキイロアザミウマ約 200 頭をメロン苗に接種し人工気象器内にて 6/14まで維持した。ミカンキイロアザミウマはシンジェンタジャパン株式会社 技術普及センター(静岡県島田市)場内のガラス温室内プランター植えナスに発生した個体群を 2024 年 4 月に採集したものと、催芽ソラマメで継代飼育した個体群をシンジェンタ株式会社から分与を受けて用いた。

( 2024 ) 年度 委託

## 作物名

(メロン)

対象病害虫名・学名 アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ・*Frankliniella occidentalis*)

試験場名 高知大(生理)

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分・量 Lo. No.	使用 条件	連制	10株当たりの寄生虫数								薬害 6/20 6/24 7/2	
			処理前 (6/17)		処理3日後 (6/20)		処理7日後 (6/24)		処理15日後 (7/2)			
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫		
169) マッチ乳剤 ルフェヌロン : 5.0% Lot: KYN1E17	2000 倍 希釈 散布	I	5	56	1	1	2	3	1	5	-	
		II	8	38	1	0	1	3	4	2	-	
		III	1	43	2	2	1	3	1	1	-	
		平均	4.7	45.7	1.3	1.0	1.3	3.0	2.0	2.7		
		合計	151		7		13		14			
		補正密度指数*			13.0		38.7		23.5			
対) ディアナSC スピネトラム : 11.7%	2500 倍 希釈 散布	I	3	23	1	2	2	1	2	2	-	
		II	3	49	2	1	2	3	2	0	-	
		III	3	34	1	1	2	1	2	1	-	
		平均	3.0	35.3	1.3	1.3	2.0	1.7	2.0	1.0		
		合計	115		8		11		9			
		補正密度指数*			19.6		43.0		19.8			
無処理		I	6	48	2	21	2	7	1	23		
		II	6	43	3	17	3	16	1	25		
		III	4	73	3	18	1	11	2	19		
		平均	5.3	54.7	2.7	18.7	2.0	11.3	1.3	22.3		
		合計	180		64		40		71			

\* 成虫と幼虫の合計から算出した補正密度指数

4. 考察 判定は処理3, 7, 15日後の成虫と幼虫の合計の補正密度指数で行った。

169) マッチ乳剤 2000倍希釈散布 BBB-

本剤の2000倍希釈散布は、対照のディアナSCの2500倍希釈散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( なす )

対象病害虫名 フタテンミドリヒメヨコバイ

試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 下八川裕司

**1. 試験目的** 防除効果及び薬害の検討

**2. 試験方法** 試験地場所 高知県南国市甘枝 1100 高知県農業技術センター

**対象病害虫発生状況** 多発生

**耕種概要** (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:‘黒陽’ 定植日:2024年5月17日 施設(プラスチックハウス)栽培

栽植距離:畠幅 140cm × 株間 50cm 1条植え 土性:灰色低地土 栽培条件:主枝 3本仕立て 試験期間中の防除薬剤:なし  
施肥その他一般管理は慣行に準じた。

**区制・面積・試験区の構成** 1区 7.0 m<sup>2</sup> (1.4m × 5m) 10株 3連制

2- I	3- I	1- I
3- II	1- II	2- II
1- III	2- III	3- III

1:MIE-1705EC 2:ウララ DF 3:無処理

I、II、IIIは連制を示す。

**処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響**

(処理年月日) 2024年9月30日

(処理時の作物のステージ) 草丈約30cm 生育期

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を背負い式電動噴霧器((株)丸山製作所製スーパー霧大将 MSB1500Li)を用いて、約300L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように散布した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内栽培のため降雨による影響はなかった。

**試験期間中の気象条件**

月/日	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11
平均気温(°C)	24.1	24.1	23.2	23.6	23.0	23.2	25.1	24.4	22.1	22.3	22.0	21.5

観測地点:南国市後免アメダスデータ

**調査月日・方法** (月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(9月30日)、処理2日後(10月2日)、7日後(10月7日)、12日後(10月11日)

(調査方法) 各区10株について、株当たり任意の上位展開葉2葉に寄生するフタテンミドリヒメヨコバイの成虫、幼虫を肉眼により計数した。

薬害は、薬剤調査時に、茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・詳細な方法を記載)

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( なす )

対象病害虫名 フタテンミドリヒメヨコバイ

試験場名 高知県農業技術センター

### 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・含有量 Lot No.	処理量 使用条件	連制	20葉あたり寄生虫数(頭)												葉害 10月2日、 10月7日、 10月11日	
			処理前 (9月30日)			処理2日後 (10月2日)			処理7日後 (10月7日)			処理12日後 (10月11日)				
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計		
31) MIE-1705EC 既知化合物 10% 23I-4840	8,000倍 散布	I	46	6	52	0	2	2	0	3	3	0	2	2	—	
		II	21	2	23	0	0	0	0	0	0	0	1	1	—	
		III	55	17	72	0	1	1	2	1	3	0	1	1	—	
		合計	122	25	147	0	3	3	2	4	6	0	4	4	—	
(補正密度指数)						( 1.4 )			( 2.0 )			( 1.6 )				
79) ウララ DF フロニカミド <sup>®</sup> 10.0% 26.10 008320	2,000倍 散布	I	87	13	100	2	0	2	0	1	1	0	0	0	—	
		II	20	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
		III	36	10	46	0	0	0	3	1	4	0	0	0	—	
		合計	143	24	167	2	0	2	3	2	5	0	0	0	—	
(補正密度指数)						( 0.8 )			( 1.5 )			( 0 )				
無処理	—	I	27	11	38	64	6	70	76	13	89	49	22	71	—	
		II	25	7	32	16	6	22	53	6	59	36	8	44	—	
		III	40	9	49	67	13	80	81	15	96	71	12	83	—	
		合計	92	27	119	147	25	172	210	34	244	156	42	198	—	
(補正密度指数)						(100)			(100)			(100)				

### 4. 考察

実用性の判定は、処理 2、7、12 日後の補正密度指数により行った。

#### 31) MIE-1705EC 8,000 倍 散布 -AA-

本剤 8,000 倍希釈液散布は、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかつた。

#### 79) ウララ DF 2,000 倍 散布 -AA-

本剤 2,000 倍希釈液散布は、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかつた。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( キュウリ )

対象病害虫名 アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)

試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 下八川裕司

**1. 試験目的** 防除効果及び薬害の検討

**2. 試験方法** 試験地場所 高知県南国市廿枝 1100 高知県農業技術センター

**対象病害虫発生状況** 少発生→中発生

**耕種概要** (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:‘夏すずみ’ 定植日:2024年5月16日 施設(プラスチックハウス)栽培

栽植距離:畝幅160cm、株間45cm つる下ろし栽培(力枝3本) 土性:灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

**区制・面積・試験区の構成** 1区 7.2 m<sup>2</sup> (1.6m×4.5m) 10株 3連制

1 - I	2 - I
I II IIIは連制を示す。	
2 - II	1 - II
1 - III	2 - III

1:サフオイル乳剤 2:無処理

I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年5月27日、6月3日

(処理時の作物のステージ) 収穫期(草丈約30cm)

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を背負い式電動噴霧器((株)丸山製作所製スーパー霧大将MSB1500Li)を用いて、約140L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように散布した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内栽培のため降雨による影響はなかった。

**試験期間中の気象条件**

月/日	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6
平均気温(°C)	24.1	24.1	23.2	23.6	23.0	23.2	25.1	24.4	22.1	22.3	22.0
	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17
	21.5	21.4	19.3	20.7	22.3	23.0	23.4	23.6	23.5	24.5	23.7

観測地点:南国後免アメダスデータ

**調査月日・方法**(月日、詳細な方法、指數等を用いた場合は指數分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 第1回処理前(5月27日)、第1回処理3日後(5月30日)、第2回処理前(6月3日)、

第2回処理7日後(6月10日)、第2回処理14日後(6月17日)、

(調査方法) 各区両端の株を除いた8株から任意の展開葉2葉を選定し、寄生するミナミキイロアザミウマの成虫、幼虫を計数した。

また、葉効調査時に茎葉および果実の薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・詳細な方法を記載)

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( キュウリ )

対象病害虫名 アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)

試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 下八川裕司

### 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・含有量 Lot No.	希釀倍数 使用条件	連制	16葉あたりの個体数(頭)												薬害 5月30日、6月3日、 6月10日、6月17日	
			第1回処理前 (5月27日)			第1回処理3日後 (5月30日)			第2回処理前 (6月3日)			第2回処理7日後 (6月10日)				
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
107) サフオイル乳剤 調合油(サフラワー油および 綿実油の合量として) 97.0% 14958	300倍 散布	I II III	2 3 2	3 6 2	5 9 4	2 0 1	4 1 5	6 0 6	0 0 0	1 0 1	1 4 1	1 4 0	2 0 1	3 4 1	— — —	
		合計	7	11	18	3	10	13	0	2	2	4	4	8	0 1 1	
		補正密度指数				48.1			13.3			16.7			2.8	
		I II III	3 0 0	1 3 5	4 3 5	0 3 2	2 3 8	5 6 10	1 1 1	4 2 2	5 3 2	3 0 1	6 12 10	9 12 11	1 5 1	
		合計	3	9	12	5	13	18	3	7	10	4	28	32	7 17 24	
		補正密度指数				100			100			100			100	

### 4. 考察

実用性の判定は、第1回処理3日後、第2回処理前、第2回処理7日後、14日後の補正密度指数で行った。

107) サフオイル乳剤 300倍 7日間隔2回散布 -BB-

本剤の300倍希釀液7日間隔2回散布は、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託	作物名 ( ニラ )
対象病害虫名・学名	ネギアザミウマ ( <i>Thrips tabaci</i> Lindeman)
試験場名	高知県農業技術センター

担当者氏名 吉田 百花

### 1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

### 2. 試験方法 試験地場所 高知県南国市甘枝 1100 高知県農業技術センター

対象病害虫発生状況 多発

#### 耕種概要

品種: 'タフボーイ' 定植日: 2023年6月28日 施設栽培 栽植距離: 畠幅 180cm、株間 28cm × 条間 28cm 4条植え

土性: 灰色低地土

試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 3.5 m<sup>2</sup> (1.8m × 1.96m) 28株 3連制

2-I	3-I	1-I	3-II
	2-II	1-II	
3-III	1-III	2-III	

1:OAT-1103 フロアブル 2:グレーシア乳剤 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年7月5日

(処理時の作物のステージ) 草丈 20cm (6月19日に刈取りを実施)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように肩掛式手動噴霧器を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨の影響はなし。

#### 試験期間中の気象条件

月日	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12
平均気温(℃)	25.9	25.8	28.5	29.9	30.0	30.8	31.5	32.0

観測地点: 試験施設内の地上約 150cm にデータロガー(TR-72wb)を設置し、30 分間隔で測定した。

#### 調査月日・方法

(調査月日) 7月5日(処理前)、7月8日(処理3日後)、7月12日(処理7日後)

(調査方法) 各区両端の2列を除く20株について、各株の中心の2葉に寄生するネギアザミウマを幼虫・成虫別に調査した。

薬害は、薬効調査時に薬害症状の有無について以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++: 重度の薬害症状を認める。

#### その他

特になし

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( ニラ )

対象病害虫名・学名 ネギアザミウマ (*Thrips tabaci Lindeman*)

試験場名 高知県農業技術センター

**3. 試験成績**

供試薬剤 有効成分・含有量 Lot No.	使用条件	連制	40葉(20株)あたりの虫数(頭)						薬害 (7/8, 12)		
			処理前(7/5)			処理3日後(7/8)			処理7日後(7/12)		
幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計			
47) OAT-1103 既知化合物 10.0% Lot No. 1CA01	1,000倍 散布	I	96	46	142	89	105	194	134	163	297
		II	156	61	217	185	162	347	155	210	365
		III	216	41	257	180	101	281	37	101	138
		合計	468	148	616	454	368	822	326	474	800
補正密度指数						81.5					103.8
対) グレーシア乳剤 フルキサメタミド 10.0%	2,000倍 散布	I	54	43	97	4	22	26	2	64	66
		II	391	57	448	2	39	41	2	74	76
		III	132	43	175	1	36	37	4	114	118
		合計	577	143	720	7	97	104	8	252	260
補正密度指数						8.8					28.9
無処理		I	95	50	145	119	132	251	77	131	208
		II	325	47	372	350	170	520	126	191	317
		III	30	22	52	43	118	161	45	142	187
		合計	450	119	569	512	420	932	248	464	712
補正密度指数						100					100

**4. 考察**

実用性の判定は、散布3、7日後の補正密度指数により行った。

47)OAT-1103 フロアブル 1,000倍希釈液散布 DDD-

本剤の1,000倍希釈液散布は、対照のグレーシア乳剤2,000倍希釈液散布と比較して効果が劣り、無処理と比較して防除効果は認められなかった。実用性はないと考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( しそ )

対象病害虫名 タバココナジラミ  
試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 下八川裕司

**1. 試験目的** 防除効果及び薬害の検討

**2. 試験方法** 試験地場所 高知県南国市廿枝 1100 高知県農業技術センター

**対象病害虫発生状況** 多発生

**耕種概要** (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:‘ちりめん青しそ’ 定植日:2024年6月18日 施設(プラスチックハウス)栽培

栽植距離:畠幅160cm、株間25cm、条間25cm 2条千鳥植え 土性:灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

**区制・面積・試験区の構成** 1区 4.0 m<sup>2</sup> (1.6m×2.5m) 20株 3連制

2-I	1-I	3-I	1-II	3-II	2-II	3-III	2-III	1-III
1:ファインセーブロアブル 2:フーモン 3:無処理 I II IIIは連制を示す。								

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年8月14日

(処理時の作物のステージ) 収穫期(草丈約100cm)

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を背負い式電動噴霧器(株)丸山製作所製スーパー霧大将 MSB1500Li)を用いて、約250L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように散布した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内栽培のため降雨による影響はなかった。

**試験期間中の気象条件**

月/日	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25
平均気温(°C)	29.3	28.9	30.5	29.9	29.7	25.6	28.3	29.1	29.4	29.5	28.6	28.6

観測地点:南国後免アメダスデータ

**調査月日・方法** (月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(8月14日)、処理2日後(8月16日)、7日後(8月21日)、12日後(8月26日)

(調査方法) 各区から任意の展開葉10葉を選定し、寄生するタバココナジラミ成虫を計数した。また、任意の展開葉10葉を実験室に持ち帰り、寄生するタバココナジラミ幼虫を実体顕微鏡下で齢期別に計数した。

また、薬効調査時に茎葉および果実の薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( しそ )

対象病害虫名 タバココナジラミ  
 試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 下八川裕司

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・含有量 Lot No.	希釈倍数 使用条件	連制	10葉あたりの個体数(頭)												葉害 8月16日、 8月21日、8月26日		
			処理前 (8月14日)				処理2日後 (8月16日)				処理7日後 (8月21日)						
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
148) フайнセーブロアブル ワットキ 10.0% 25.10 204051H	2,000倍 散布	I II III 合計	3 5 22 30	0 2 3 5	0 5 19 8	0 3 47 64	0 0 1 1	0 1 7 8	0 6 17 23	0 10 26 36	0 2 2 2	1 2 0 4	1 1 3 14	1 1 7 22	0 5 20 38	0 2 50 109	— — — 2
補正密度指数																( 175.4 )	
( 13.7 )																( 72.2 )	
( 159.9 )																( 32.4 )	
( 55.4 )																( 100 )	
( 100 )																( 100 )	
( 100 )																( 100 )	

## 4. 考察

実用性の判定は、処理7日後、12日後の補正密度指数で行った。

## 148) フайнセーブロアブル 2,000倍 散布 BCC -

本剤の2,000倍希液散布は、対照のフーモン1,000倍希液散布と比較して同等の効果を示し、無処理と比較して防除効果は認められるがその程度は低かった。効果はやや低いが実用性あると考えられる。なお、茎葉や果実に葉害の症状は見られなかった。

( 2024 )年 度 委 託	作物名 ( きく )
対象病害虫名・学名	アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)
試験場名	高知県農業技術センター

担当者氏名 田村 悠

### 1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

### 2. 試験方法 試験地場所 高知県南国市廿枝 1100 高知県農業技術センター

#### 対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 'スノーエンゼル' 定植日: 2024年7月9日 露地栽培

栽植距離: 畠幅 150cm、株間 20cm、条間 30cm、2植え 各区の間に 1m の緩衝地帯(定植なし)を設けた。

土性: 灰色低地土 試験期間中の防除薬剤: なし 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6 m<sup>2</sup> (2.4m×1.5m) 24株、3連制

3 - I	2 - I	1 - I
2 - II	1 - II	3 - II
1 - III	3 - III	2 - III

1:ミネクトデュオ粒剤 2:ダントツ粒剤 3:無処理 I II IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年7月29日

(処理時の作物のステージ) 生育期、草丈約30cm

(処理方法) 粒剤 2g/株を株元処理した。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中に以下の降雨が認められたが、試験には影響しなかったと考える。

#### 試験期間中の気象条件

月日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
平均温度(°C)	30.1	30.7	30.8	29.6	29.7	30	29.3	29.4	29.3	29.1	29.3	29.4	29.6	29
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月日	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25
平均温度(°C)	28.8	29.1	29.3	28.9	30.5	29.9	29.7	25.6	28.3	29.1	29.4	29.5	28.6	28.6
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	103	21.5	1	3	2	1	0

観測地点: 高知県南国市後免のアメダスデータ

#### 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指數等を用いた場合は指數分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理7日後(8月5日)、処理15日後(8月13日)、処理22日後(8月20日)、処理27日後(8月25日)

(調査方法) 薬効は、各区16株について、処理7、15日後は任意の複葉6枚、処理22、27日後は任意の複葉10枚に寄生する成幼虫数を肉眼で調査した。

薬害は、茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++: 重度の薬害症状を認める。

#### その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

( 2024 )年 度 委 託

作物名

( きく )

対象病害虫名・学名 アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)

試験場名 高知県農業技術センター

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 区制	処理7、15日後は96葉あたり、処理22、27日後は160葉あたりの虫数												薬害 8/5、 8/13、 8/20、 8/25	
		処理7日後			処理15日後			処理22日後			処理27日後				
		8月5日			8月13日			8月20日			8月25日				
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
171) ミネクトデュオ粒剤 シアントラニリブ <sup>®</sup> ロール:0.5%	2g/株 生育期	I	0	5	5	0	1	1	1	0	1	0	1	1	—
チアメキサム:0.3%	株元散布	II	0	3	3	1	0	1	0	2	2	0	0	0	—
25.10 KUN2J051		III	1	13	14	3	0	3	1	0	1	1	0	1	—
		計	1	21	22	4	1	5	2	2	4	1	1	2	
		(密度指数)				(66.7)			(11.9)			(11.1)		(3.5)	
対)ダントツ粒剤 クロチアニジン:0.5%	2g/株 生育期	I	0	10	10	4	6	10	2	1	3	2	3	5	—
	株元散布	II	2	2	4	3	0	3	3	0	3	1	3	4	—
		III	4	9	13	3	2	5	1	2	3	1	4	5	—
		計	6	21	27	10	8	18	6	3	9	4	10	14	
		(密度指数)				(81.8)			(42.9)			(25.0)		(24.6)	
無処理	—	I	4	5	9	2	3	5	5	5	10	2	15	17	
		II	2	11	13	6	6	12	2	5	7	2	12	14	
		III	2	9	11	9	16	25	5	14	19	3	23	26	
		計	8	25	33	17	25	42	12	24	36	7	50	57	
		(密度指数)				(100)			(100)			(100)		(100)	

## 4. 考察

実用性の判定は、処理 15、22、27 日後の密度指数より行った。

171) ミネクトデュオ粒剤 2g/株 生育期株元散布 ABB-

本剤の 2g/株、株元処理は、対照剤のダントツ粒剤 2g/株、株元処理と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

作物名  
( きく )  
( 2022 )年 度 委 託

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型)

試験場名 高知県農業技術センター

担当者氏名 田村 悠

**1. 試験目的** 防除効果及び薬害の検討

**2. 試験方法** 試験地場所 高知県南国市廿枝 1100 高知県農業技術センター

**対象病害虫発生状況** 少発生(放虫)

**耕種概要** (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:‘セイレウカ’ 定植日:2023年7月18日 施設(プラスチックハウス)栽培

栽植距離:畠幅 150cm、株間 20cm、条間 30cm、2 条千鳥植え 各区の間に 1m の緩衝地帯(定植なし)を設けた。

土性:灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

**区制・面積・試験区の構成** 面積 2a(PO フィルム) 1 区 3.6 m<sup>2</sup> (2.4m×1.5m) 22 株、3 連制

1 - I	2 - I	3 - I
2 - II	3 - II	1 - II
3 - III	1 - III	2 - III

1:エコマイト顆粒水和剤 2:コロマイト乳剤 3:無処理 I II III は連制を示す。

**処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響**

(処理年月日) 2023 年 10 月 25 日

(処理時の作物のステージ) 生育後期、草丈約 100cm

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を肩掛け式手動散布機を使用して、10a 当たり約 278L 敷布した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内栽培のため降雨による影響はなかった。

**試験期間中の気象条件**

月日	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8
平均温度 (°C)	20.9	20.6	18.5	19.8	21.0	20.1	20.9	19.9	19.9	20.8	21.2	22.5	23.5	22.7	20.3

観測地点:試験施設内の地上約 150cm にデータロガー(TR-72wb)を設置し、60 分間隔で測定した。

**調査月日・方法**(月日、詳細な方法、指數等を用いた場合は指數分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 敷布前(10月25日)、敷布3日後(10月28日)、敷布7日後(11月1日)、敷布14日後(11月8日)、

(調査方法) 薬効は、各区 11 株について任意の複葉 30 枚に寄生する雌成虫を肉眼で調査した。

薬害は、茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

2023 年 10 月 18 日に高知県須崎市のミョウガから採取したナミハダニ(黄緑型)個体群を、10 月 19 日にミョウガ葉をキク葉上に設置する方法で 1 区あたり雌成虫約 200 頭接種した。

( 2022 ) 年度 委託

作物名

( きく )

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型)

試験場名 高知県農業技術センター

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 区制	330葉あたりの雌成虫数				薬害 10/28、 11/1、 11/8
		散布前 10月25日	散布3日後 10月28日	散布7日後 11月1日	散布14日後 11月8日	
89) エコマイト顆粒水和剤 スピロジクロフェン:38.0%	I 2,000倍	16 34	3 6	6 11	5 13	—
Lot No.25.10 42202 散布	III	3	0	2	5	—
	計	53	9 (13.2)	19 (22.5)	23 (21.2)	
	(補正密度指数)					
対) コロマイト乳剤 ミルベメクチン:1.0%	I 1,500倍 散布	12 12 36	3 3 8	10 13 5	9 16 8	—
	II III					
	計	60	14 (18.1)	28 (29.2)	33 (26.9)	
	(補正密度指数)					
無処理	I II III	42 13 7	51 18 11	53 27 19	56 41 30	
	—					
	計	62	80 (100)	99 (100)	127 (100)	
	(補正密度指数)					

## 4. 考察

実用性の判定は、散布3、7、14日後の補正密度指数より行った。

## 89) エコマイト顆粒水和剤 2,000倍希釈液 ACC-

本剤の2,000倍希釈液散布は、対照剤のコロマイト乳剤1,500倍希釈液散布と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して防除効果は認められたものの、その程度はやや低かった。防除効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

## 作物名

(チングンサイ)

(2024)年度委託

対象病害虫名 アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)

試験場名 徳島県立農林水産総合技術支援センター

担当者氏名 赤澤和大・中野昭雄

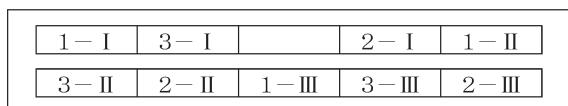
1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 徳島県名西郡石井町石井字石井

対象病害虫発生状況 無発生→中発生

## 耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:青帝 露地栽培 播種:2024年9月12日 栽植距離:畠幅100cm 3条播き 土性:埴壌土 試験期間中の防除薬剤:なし 0.8mm目合い防虫ネット(透明)をトンネル被覆 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。



1:グラビオン粒剤 2:モスピラン粒剤 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

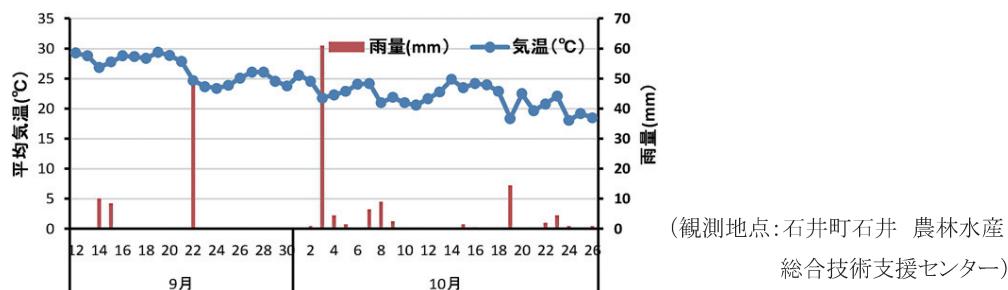
区制・面積 1区 3.0 m<sup>2</sup> (1.0×3.0 m) 300~400株 3連制

## 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年9月12日 (処理量) 9kg/10a

(処理方法) 畠上、筋状に掘った深さ3cm程度の溝に、薬剤の所定量を手で散粒した。その後、手押し式播種機を用いて播種しながら混和した。

(試験中の降雨) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。



## 調査月日・方法

(調査月日) 処理23日後(10月5日)、同28日後(10月10日)、同35日後(10月17日)、同44日後(10月26日)

(調査方法) 各区中央より任意に抽出した10株における寄生個体数を、幼虫、無翅成虫、有翅成虫の別に計数した。

なお、薬害は葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

## その他

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量	処理量	区制	10株当たり寄生虫数(頭)											
			処理23日後(10/5)				処理28日後(10/10)				処理35日後(10/17)			
			幼虫	無翅成虫	無翅成虫	計	幼虫	無翅成虫	無翅成虫	計	幼虫	無翅成虫	無翅成虫	計
98)グラビオン粒剤 シンプロビリダス® 0.6% Lot No.K240603A	9kg/10a	I区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		II区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
対照 モスピラン粒剤 アセビプロ® 2.0%	3kg/10a	I区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
		III区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
無処理		I区	0	0	0	0	49	15	0	64	122	56	1	179
		II区	0	0	0	0	0	1	0	1	10	7	1	18
		III区	0	0	0	0	0	0	0	0	68	32	0	100
		合計	0	0	0	0	49	16	0	65	200	95	2	297

作物名  
( チンゲンサイ )

( 2024 ) 年度 委託

**対象病害虫名** アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)

**試験場名** 徳島県立農林水産総合技術支援センター

供試薬剤 有効成分名・量	処理量	区制	10株当たり寄生虫数(頭)				密度指数				薬害 10/5 10/10 10/17 10/26	
			処理44日後(10/26)				23日後	28日後	35日後	44日後		
			幼虫	無翅成虫	無翅成虫	計						
98) グラビオン粒剤 シンプロビリダズ <sup>®</sup> 0.6% Lot No.K240603A	9kg/10a	I 区	0	0	0	0					—	
		II 区	0	1	0	1					—	
		III 区	8	1	0	9					—	
		合計	8	2	0	10	-	0	0.3	15.2		
対照 モスピラン粒剤 アセタブリド <sup>®</sup> 2.0%	3kg/10a	I 区	12	8	0	20					—	
		II 区	24	8	0	32					—	
		III 区	16	16	0	32					—	
		合計	52	32	0	84	-	0	1.0	127.3		
無処理		I 区	0	6	0	6						
		II 区	32	15	0	47						
		III 区	8	5	0	13						
		合計	40	26	0	66	-	100	100	100		

#### 4. 考察

実用性の判定は、処理 44 日後の無処理区において、テントウムシ類成幼虫やヒラタアブ類幼虫が確認されたため、処理 35 日後の密度指数を重視して行った。

98) グラビオン粒剤 9kg/10a 播種時播溝土壤混和 BAA-

本剤の9kg/10a 播種時播溝土壤混和は、対照のモスピラン粒剤、9kg/10a、播溝土壤混和と比較して同等の効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと思われる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年 度 委 託

作物名  
( ブロッコリー )

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 徳島県立農林水産総合技術支援センター

担当者氏名 広岡 佑太

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 徳島県名西郡石井町石井字石井

対象病害虫発生状況 中発生(放虫)

#### 耕種概要(品種・施肥・一般管理)

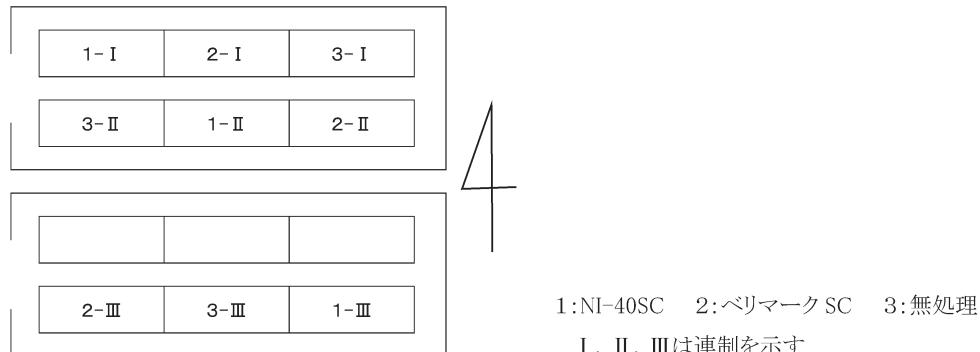
品種:SK9-099 育苗:128穴セルトレイ 育苗培土:与作N-150 播種:2024年8月28日 定植:2024年10月4日

施設栽培(トンネルビニルハウス) 栽植距離:株間40cm×畠幅120cm 1条植

土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。

#### 区制・面積・試験区の構成

生育期:1区6m<sup>2</sup> (5m×1.2m) 13株 3連制



#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年10月3日

(処理量) 0.5L/セルトレイ

(処理方法) 所定の濃度に調製し、定植前日にジョロを用いて灌注した。

(作物ステージ) 生育期(最終調査日:草丈約30cm、本葉約8枚)

(試験中の降雨) 施設栽培のため、降雨による影響はなかった。

#### 試験期間中の気象条件

ハウス内(地上約50cm)の温度は、データロガー(おんどとりJr.)を用いて、30分間毎に測定した。

月 日	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16
平均気温(℃)	23.1	23.0	24.4	26.3	26.0	21.7	22.0	23.5	22.7	22.0	22.9	24.4	26.3	24.0

月 日	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31
平均気温(℃)	25.1	24.8	23.1	19.2	22.0	23.0	25.9	20.0	21.6	19.5	22.8	20.2	18.8	19.8	20.3

#### 調査月日・方法

(調査月日) 定植6日後(10月10日)、14日後(10月18日)、21日後(10月25日)、27日後(10月31日)

(調査方法) 各区10株を固定し、株全体に寄生するシロイチモジヨトウ幼虫数を発育ステージごとに調査した。

薬害は葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他

シロイチモジヨトウの自然発生が無かったため、2024年10月11日に2卵塊(2024年10月9日に徳島県立農林水産総合技術支援センター内でライトトラップにより採集した個体群の次世代)、18日に1卵塊(2024年10月1日に同センター内のブロッコリー圃場で採集した個体群の次世代)ずつ各区に接種した。

( 2024 ) 年 度 委 託

作物名  
( ブロッコリー )

対象病害虫名 シロイチモジョトウ

試験場名 徳島県立農林水産総合技術支援センター

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量	希釈倍数 処理量 処理方法	連制	10株あたりのシロイチモジョトウ寄生虫数(頭)												薬害 10/10,18,2 5,31			
			定植6日後				定植14日後				散布21日後							
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計
36)NI-40SC 新規化合物 200g/L Lot No. F-23157-2	200倍 0.5L/トレイ 灌注	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		III	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	-
		合計	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0
対)ペリマークSC シアントラニリブロール 18.7%	400倍 0.5L/トレイ 灌注	密度指數	-	-	-	-	4.2	-	-	1.9	-	-	-	-	0	0	0	0
		I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
無処理		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		密度指數	-	-	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	0	0	0	0
		I	0	0	0	0	8	0	0	8	36	8	5	49	1	19	3	23
		II	0	0	0	0	14	0	0	14	13	1	3	17	0	11	0	11
		III	0	0	0	0	26	0	0	26	18	19	2	39	4	23	2	29
		合計	0	0	0	0	48	0	0	48	67	28	10	105	5	53	5	63
		密度指數	-	-	-	-	100	-	-	100	-	-	-	-	100	100	100	100

## 4. 考察

実用性の判定は、定植 14、21、27 日後の寄生虫数の密度指数により行った。

36)NI-40SC 200倍 0.5L/トレイ 定植前日灌注 BAA-

本剤の 200 倍 0.5L/トレイ 定植前日灌注は、対照剤ペリマーク SC 400 倍 0.5L/トレイ 定植前日灌注と比較して効果がほぼ同等で、無処理と比較して効果が高かった。以上のことより実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年 度 委 託

作物名  
( レタス )

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 徳島県立農林水産総合技術支援センター

担当者氏名 広岡 佑太

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 徳島県名西郡石井町石井字石井

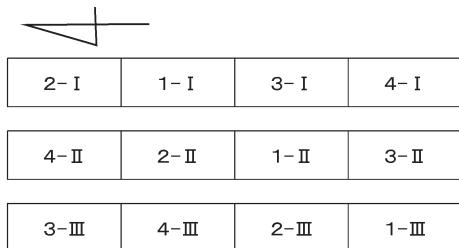
対象病害虫発生状況 中発生(放虫)

#### 耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:サウザー 露地栽培 定植:2024年10月1日 栽植距離:株間50cm×畠幅150cm

3条植 施肥、その他一般管理は慣行栽培に準じた。 土性:埴壌土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区6m<sup>2</sup> (4m×1.5m) 24株 3連制



1:サイモディス DC 2:ロムダンプロアブル 3:アニキ乳剤 4:無処理

I、II、IIIは連制を示す

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年10月16日

(処理量) 111L/10a

(処理方法) 薬液を所定の濃度に調整し、電動噴霧器を用いて散布した。

(作物ステージ) 本葉約5枚

(試験中の降雨) 処理日(10月16日)に降雨は無く、試験への影響は無かったと考える。

#### 試験期間中の気象条件

月 日	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
平均気温(°C)	16.1	17.9	18.1	17.5	18.1	18.3	19.8	17.8	18.5	17.3	17.1	19.2
降水量(mm)	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	4.5	1.5

観測地点:アメダス徳島

#### 調査月日・方法

(調査月日) 敷布直前(10月16日)、敷布2日後(10月18日)、敷布6日後(10月22日)

(調査方法) 各区10株を固定し、株全体に寄生するシロイチモジヨトウ幼虫数を発育ステージごとに調査した。

葉害は葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、葉害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。

+++:重度の葉害症状を認める。

#### その他

シロイチモジヨトウの自然発生が無かつたため、2024年10月11日及び15日に1卵塊ずつ各区に接種した(2024年10月9日に徳島県立農林水産総合技術支援センター内でライトトラップにより採集した個体群の次世代)。

( 2024 ) 年 度 委 託

作物名  
( レタス )

対象病害虫名 シロイチモジヨトウ

試験場名 徳島県立農林水産総合技術支援センター

## 3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量	希釀倍数	連制	10株あたりのシロイチモジヨトウ寄生虫数(頭)												薬害 10/18,22	
			散布直前				散布2日後				散布6日後					
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計		
106) サイモディスDC イソクロセラム 9.3% Lot No. HWI002-041-002	4,000倍	I II III 合計	18 26 29 73	0 0 0 0	0 0 0 0	18 26 29 73	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	- - - -		
		補正密度指數													0 0	
187) ロムダンプロアブル テブフェノジト 20.0% Lot. No. HCB-020SK	2,000倍	I II III 合計	32 29 13 74	0 0 0 0	0 0 0 0	32 29 13 74	8 10 4 22	0 0 0 0	8 10 4 22	0 0 0 0	0 0 0 0	0 1 0 1	0 0 0 1	- - - 1.7		
		補正密度指數													48.7 1.7	
対) アニキ乳剤 レビメクチン 1.0%	2,000倍	I II III 合計	16 29 36 81	0 0 0 0	0 0 0 0	16 29 36 81	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	- - - -		
		補正密度指數													0 0	
無処理		I II III 合計	42 34 14 90	0 0 0 0	0 0 0 0	42 34 14 90	34 16 0 50	0 3 2 5	34 19 2 55	6 7 3 16	38 16 0 55	0 0 0 0	44 23 4 71	- - - 100		
		補正密度指數													100	

## 4. 考察

実用性の判定は、散布2、6日後の補正密度指数より行った。

106) サイモディス DC 4,000倍散布 BAA-

本剤の4,000倍希釀液散布は、対照のアニキ乳剤2,000倍希釀液散布とほぼ同等の効果であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。したがって実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

187) ロムダンプロアブル 2,000倍散布 DBB-

本剤の2,000倍希釀液散布は、対照のアニキ乳剤2,000倍希釀液散布と比較し効果が劣り、無処理と比較して防除効果が認められた。したがって実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( だいす )

対象病害虫名 シロイチモジョトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場 担当者氏名 横田佑哉、飯干浩美、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

対象病害虫発生状況 多→少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:エンレイ 播種:2024年9月11日 栽植距離:畝間150cm×株間30cm 条間40cm 千鳥2条植え

露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。 土性:壤土 試験期間中の薬剤防除なし。

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6m<sup>2</sup> (1.5m×2.4m) 16株 3連制

1-I	2-I	3-I	2-II	3-II	1-II	3-III	1-III	2-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

1:ベネビアOD、2:プレオフロアブル、3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年10月2日 (処理量) 148L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定濃度に希釈調製し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が十分濡れる様に散布した。

(作物のステージ) 初生葉展開期、草丈約20cm

(処理前後の降雨影響) 処理当日の降雨は処理8時間後の降雨であり、処理3時間後には薬液が完全に乾いていたため、影響はなかったと考える。

#### 試験期間中の気象条件

月日	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9
平均気温(℃)	25.8	24.5	23.9	24.5	23.7	23.6	22.4	23.2	25.1	24.3	21.8	21.3
降水量(mm)	0	0	0	0	7.0	11.5	18.0	10.5	0	14.0	24.5	0

観測地点:高知試験場内観測データ

#### 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指數等を用いた場合は指數分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(10月2日)、処理2日後(10月4日)、同5日後(10月7日)、同7日後(10月9日)

(調査方法) 各区中央付近の10株の3複葉(計30複葉)について寄生虫数を発育ステージ別(若齢、中齢、老齢)に調査した。

薬害は、各調査日に茎葉への薬害症状の有無について以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

2024年9月28日(処理4日前)、シロイチモジョトウ孵化卵塊を各区中央付近の6株の葉裏に1卵塊ずつホチキスを用いて接種した(計6卵塊/区)。供試虫は、日植防高知飼育個体群(2020年に高知県香美市土佐山田町のネギ圃場より採集し、累代飼育)を用いた。10月2日に多数の食害を確認し、試験を開始した。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいす )

対象病害虫名 シロイチモジョトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	10株3複葉(計30複葉)あたりのシロイチモジョトウ寄生虫数												葉害 10/4,7,9				
			処理前 10/2			処理2日後 10/4			処理5日後 10/7			処理7日後 10/9							
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢				
166 ) ベネビアOD シアントラニプロール 10.3% 4000倍 散布 Lot.No.: 24.10 105N06	I II III 計	I	64	53	0	117	0	7	0	7	0	4	0	4	0	1	0	1	-
		II	60	89	0	149	1	13	0	14	0	1	0	1	0	0	0	0	-
		III	25	33	0	58	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	-
		計	149	175	0	324	1	22	0	23	0	6	0	6	0	1	0	1	
補正密度指数			—			14.8			11.1			4.1							
対照 ) プレオプロアブル ピリダリル 10.0% 1000倍 散布	I II III 計	I	46	65	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		II	50	80	0	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		III	23	23	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		計	119	168	0	287	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
補正密度指数			—			0			0			0			0				
無処理	—	I	39	28	0	67	9	36	0	45	0	18	0	18	0	8	0	8	
		II	67	90	0	157	6	53	0	59	0	15	0	15	0	8	0	8	
		III	40	25	0	65	11	24	0	35	0	15	0	15	0	6	0	6	
		計	146	143	0	289	26	113	0	139	0	48	0	48	0	22	0	22	
補正密度指数			—			100			100			100			100				

## 4. 考察 ( 判定した時期、判定記号を記載 )

実用性の判定は、処理 2、5、7 日後の寄生虫数の補正密度指数より行った。試験期間中、ゴミムシの幼虫等の天敵を隨時確認しており、虫数減少の原因だったと考える。

## 166) ベネビア OD 4000 倍散布 CAA-

本剤 4000 倍散布は、対照薬剤のプレオプロアブル 1000 倍散布と比較して効果がやや劣り、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

葉害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場 担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所:高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:耐病総太り 播種:2024年9月13日 栽植距離: 穴間 150cm×株間 25cm 条間 40 cm 千鳥 2条点播

露地栽培 土性:壤土 施肥その他一般管理は慣行栽培に準じた。

試験期間中の防除薬剤:10月9日 フェニックス顆粒水和剤 2000倍、ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍

区制・面積・試験区の構成 1区 6.0 m<sup>2</sup> ( 1.5m × 4.0m ) 32株 3連制

	2-I	3-I			2-II			2-III
--	-----	-----	--	--	------	--	--	-------

	1-I		1-II		3-II		3-III	1-III
--	-----	--	------	--	------	--	-------	-------

1:NI-40SC 2:モスピラン顆粒水溶剤 3:無処理 I, II, III は連制を示す。

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 第1回散布 2024年9月25日、第2回散布 10月2日 (処理量) 何れも 167L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定濃度に希釈し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏がよく濡れるように散布した。

(処理時の作物ステージ) 第1回散布:本葉2.5枚、草丈約15cm、第2回散布:本葉6枚、草丈約25cm

(処理前後の降雨の影響) 10月2日(第2回散布当日)の降雨は、散布10時間後からのため影響は無かつたと考える。

#### 試験期間中の気象条件

月日	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
平均気温(℃)	24.2	25.0	26.2	25.8	24.5	23.9	24.5	23.7	23.6	22.4	23.2	25.1	24.3	21.8	21.3	21.0
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	7.0	11.5	18.0	10.5	0	14.0	24.5	0	0

月日	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24
平均気温(℃)	20.6	20.0	21.1	21.7	22.5	22.7	23.4	24.2	23.4	18.8	19.5	20.9	24.3	20.2
降水量(mm)	0	0	0	2.5	0	0	0	0.5	2.5	0	0	2.5	32.5	3.0

観測地点:場内観測データ

#### 調査月日・方法

(調査月日) 第1回処理前(9月25日)、同処理2日後(9月27日)、同7日後(10月2日)、第2回処理7日後(10月9日)、同14日後(10月16日)、同22日後(10月24日)、但し第2回処理14後は薬害調査のみ実施した。

(調査方法) 各区10株の寄生成虫数及び上位1葉の食痕数を調査した。第2回処理7日後(10月9日)第2回処理22日後(10月24日)には各区10株の根部を採取し、被害程度(無:被害なし、少:食害が僅かに認められる。中:食害痕がやや目立ち、品質やや劣る。多:食害痕が多く、品質が劣る。)別に調査した。下記により、被害度を算出した。

$$\text{被害度} = \frac{A + 2B + 3C}{3N} \times 100$$

A:被害程度少の株数  
B:被害程度中の株数  
C:被害程度多の株数  
N:調査株数

薬害は各調査日に葉部・根部(10月9日、24日のみ)について肉眼で観察し、薬害症状の有無を以下的内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

**その他** (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)  
特になし。

**3. 試験成績****<被害調査>**

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たり上位20葉の食痕数		
			第1回 処理前 9/25	第1回 処理7日後 10/2	第2回 処理7日後 10/9
36) NI-40SC  新規化合物 200g/L 7日間隔 2回散布	I		5	3	4
	II		8	2	1
	III		7	2	0
	平均		6.7	2.3	1.7
Lot.No.F-23157-2			対無処理比	3.7	4.3
対) モスピラン顆粒水溶剤  アセタミブリド 20.0% 7日間隔 2回散布	I		9	3	0
	II		10	4	10
	III		6	4	4
	平均		8.3	3.7	4.7
無処理			対無処理比	5.9	11.8
—	I		12	90	54
	II		8	58	30
	III		7	39	36
	平均		9.0	62.3	40.0
対無処理比			100	100	

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	根部の被害程度							
				第2回処理7日後 10/9					第2回処理22日後 10/24		
				無	少	中	多	*被害度	無	少	
36) NI-40SC  2000倍 7日間隔 2回散布	I		10	10	0	0	0	0	10	0	0
	II		10	10	0	0	0	0	10	0	
	III		10	10	0	0	0	0	10	0	
	平均		10.0				0				
対無処理比				0						0	
対) モスピラン顆粒水溶剤  2000倍 7日間隔 2回散布	I		10	9	1	0	0	3.3	6	3	20.0
	II		10	10	0	0	0	0	3	2	
	III		10	10	0	0	0	0	5	3	
	平均		10.0				1.1				
対無処理比				4.5						35.2	
無処理	I		10	7	1	1	1	20.0	0	0	100.0
	II		10	8	0	0	2	20.0	0	1	
	III		10	6	1	0	3	33.3	0	0	
	平均		10.0				24.4				
対無処理比				100						100	

\*被害度 = (A+2B+3C) / 3N × 100 A:被害程度少の株数、B:被害程度中の株数、C:被害程度多の株数、N:調査株数

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

## &lt;虫数調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たりの寄生成虫数				薬害 9/27、10/2、9、 16、24
			第1回 処理前 9/25	第1回 処理2日後 9/27	同処理7日後 10/2	第2回 処理7日後 10/9	
36) NI-40SC	2000倍 7日間隔 2回散布	I	0	0	0	0	—
		II	0	0	1	0	—
		III	0	0	0	0	—
		計	0	0	1	0	
		対無処理比		(0)	(25.0)		
対) モスピラン顆粒水溶剤	2000倍 7日間隔 2回散布	I	0	0	1	0	—
		II	2	0	0	0	—
		III	0	0	0	0	—
		計	2	0	1	0	
		対無処理比		(0)	(25.0)		
無処理	—	I	0	1	1	0	
		II	0	0	0	0	
		III	0	0	3	0	
		計	0	1	4	0	
		対無処理比		(100)	(100)		

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、第2回処理22日後の根部の被害度の対無処理比の結果を重視して行った。

## 36) NI-40SC 2000倍希釈液 7日間隔2回散布 AAA-

本剤の2000倍希釈液7日間隔2回散布は、対照薬剤のモスピラン顆粒水溶剤2000倍希釈液7日間隔2回散布と比較して防除効果は優り、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場 担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所:高知県香南市野市町深瀬本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:耐病総太り 播種:2024年9月13日 栽植距離: 畝間 150cm × 株間 25cm 条間:40 cm 千鳥 2条点播

露地栽培 土性:壤土 施肥その他一般管理は慣行栽培に準じた。

試験期間中の防除薬剤:10月9日フェニックス顆粒水和剤 2000倍、ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍

区制・面積・試験区の構成 1区 6.0 m<sup>2</sup> ( 1.5m × 4.0m ) 32株 3連制

2-I		3-I	1-II			1-III		
-----	--	-----	------	--	--	-------	--	--

1-I				2-II	3-II	2-III	3-III	
-----	--	--	--	------	------	-------	-------	--

1:OAT-1103粒剤 2:スタークル粒剤 3:無処理 I, II, III は連制を示す。

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年9月25日 (処理量) 何れの薬剤も 6 kg/10a

(処理方法) 各薬剤の所定量を株元に手散布した。処理後、ジョウロを用いて手灌水(6L/区)した。

(処理時の作物ステージ) 本葉 2.5枚、草丈約 15cm

(処理前後の降雨の影響) 試験に影響は無かった。

#### 試験期間中の気象条件

月日	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
平均気温(℃)	24.2	25.0	26.2	25.8	24.5	23.9	24.5	23.7	23.6	22.4	23.2	25.1	24.3	21.8	21.3	21.0
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	7.0	11.5	18.0	10.5	0	14.0	24.5	0	0

月日	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24
平均気温(℃)	20.6	20.0	21.1	21.7	22.5	22.7	23.4	24.2	23.4	18.8	19.5	20.9	24.3	20.2
降水量(mm)	0	0	0	2.5	0	0	0	0.5	2.5	0	0	2.5	32.5	3.0

観測地点:場内観測データ

#### 調査月日・方法

(調査月日) 処理前(9月25日)、処理7日後(10月2日)、処理14日後(10月9日)、同21日後(10月16日)、同29日後(10月24日)、但し処理21日後は薬害調査のみ実施した。

(調査方法) 各区20株の寄生成虫数及び、各株当たり上位1葉(計20葉)の食痕数を調査した。処理14日後(10月9日)、処理29日後(10月24日)には各区10株の根部を採取し、被害程度(無:被害なし、少:食害が僅かに認められる。中:食害痕がやや目立ち、品質やや劣る。多:食害痕が多く、品質が劣る。)別に調査した。下記により、被害度を算出した。

$$\text{被害度} = \frac{A + 2B + 3C}{3N} \times 100$$

A:被害程度少の株数  
B:被害程度中の株数  
C:被害程度多の株数  
N:調査株数

薬害は各調査日に葉部・根部(10月9日、24日のみ)について肉眼で観察し、薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

特になし。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

## &lt;被害調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たり上位20葉の食痕数			
			処理前 9/25	処理7日後 10/2	処理14日後 10/9	
48) OAT-1103粒剤	6kg/10a 既知化合物 2.0% 株元散布	I	13	5	3	
		II	5	16	9	
		III	9	12	2	
			平均	9.0	11.0	
					4.7	
Lot.No.4CA03			対無処理比		17.7	
対)スタークル粒剤	6kg/10a シノテフラン 1.0% 株元散布	I	6	18	4	
		II	12	12	11	
		III	8	22	7	
		平均	8.7	17.3	7.3	
			対無処理比		27.8	
無処理	—	I	12	90	54	
		II	8	58	30	
		III	7	39	36	
		平均	9.0	62.3	40.0	
			対無処理比		100	
			100		100	

供試薬剤	処理方法	連制	調査株数	根部の被害程度									
				処理14日後 10/9					処理29日後 10/24				
				無	少	中	多	*被害度	無	少	中	多	*被害度
48) OAT-1103粒剤	6kg/10a 株元散布	I	10	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		II	10	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		III	10	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		平均	10.0					0					0
			対無処理比					0	0				
対)スタークル粒剤	6kg/10a 株元散布	I	10	10	0	0	0	0	5	4	1	0	20.0
		II	10	10	0	0	0	0	1	2	1	6	73.3
		III	10	10	0	0	0	0	1	5	2	2	50.0
		平均	10.0					0					47.8
			対無処理比					0	50.6				
無処理	—	I	10	7	1	1	1	20.0	0	0	0	10	100.0
		II	10	8	0	0	2	20.0	0	1	2	7	86.7
		III	10	6	1	0	3	33.3	0	0	1	9	96.7
		平均	10.0					24.4					94.5
			対無処理比					100	100				

\*被害度 = (A+2B+3C) / 3N × 100 A:被害程度少の株数、B:被害程度中の株数、C:被害程度多の株数、N:調査株数

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( だいこん )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

## &lt;虫数調査&gt;

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たりの寄生成虫数			薬害 10/2、9、16、24
			処理前 9/25	処理7日後 10/2	処理14日後 10/9	
48) OAT-1103粒剤 6kg/10a 株元散布		I	0	1	0	—
		II	0	0	2	—
		III	0	0	0	—
		計	0	1	2	
対無処理比			(25.0)			
対) スタークル粒剤 6kg/10a 株元散布		I	0	1	1	—
		II	0	3	1	—
		III	0	0	0	—
		計	0	4	2	
対無処理比			(100.0)			
無処理 —		I	0	1	0	
		II	0	0	0	
		III	0	3	0	
		計	0	4	0	
対無処理比			(100)			

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、処理 29 日後の根部の被害度の対無処理比の結果を重視して行った。

## 48) OAT-1103 粒剤 6 kg/10a 株元散布 AAA-

本剤の 6 kg/10a 株元散布は、対照薬剤のスタークル粒剤 6 kg/10a 株元散布と比較して防除効果は優り、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。 実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

作物名  
( かぶ )

( 2024 ) 年度 委託

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場 担当者氏名: 飯干浩美、横田佑哉、長岡広行

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所:高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:耐病ひかり 播種:2024年9月30日 栽植距離: 穴間 150cm × 株間 13cm 条間 40 cm 2条植 露地栽培

土性:壤土 施肥その他一般管理は慣行栽培に準じた。 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.9 m<sup>2</sup> ( 1.5m × 2.6m ) 40株 3連制

1-I	2-I	3-I	3-II	1-II	2-II	3-III	2-III	1-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

1:サイモディス DC 2:モスピラン顆粒水溶剤 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

#### 処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理月日・処理量) 第1回散布:2024年10月18日(171L/10a)、第2回散布:10月25日(256L/10a)

(処理方法) 所定濃度に希釈した薬液を背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が良く濡れる様に散布した。

(作物のステージ) 第1回散布時:生育期(草丈約13cm、本葉4枚)、第2回散布時:生育期(草丈約20cm、本葉6枚)

(処理前後の降雨の影響) 10月18日(第1回処理当日)は散布4時間前の降雨で、作物体は乾いていたため影響は無かった。

#### 試験期間中の気象条件

月日	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31
平均気温(℃)	23.4	24.2	23.4	18.8	19.5	20.9	24.3	20.2	21.4	19.8	22.4	20.9	19.4	20.1	19.2
降水量(mm)	0	0.5	2.5	0	0	2.5	32.5	3.0	0	6.0	0	3.5	10.5	2.5	0

観測地点:場内観測データ、但し10月31日は南国日章アメダスデータ。

#### 調査月日・方法

(調査月日) 第1回処理前日(10月17日)、同処理1日後(10月19日)、同7日後(10月25日)、第2回処理3日後(10月28日)、同6日後(10月31日)

(調査方法) 各区20株の寄生成虫数及び上位20葉の食痕数を調査した。第2回処理6日後(10月31日)には各区10株の根部を採取し、被害程度(無:被害なし、少:食害が僅かに認められる。中:食害痕がやや目立ち、品質やや劣る。多:食害痕が多く、品質が劣る。)別に調査した。下記により、被害度を算出した。

$$\text{被害度} = \frac{A + 2B + 3C}{3N} \times 100$$

A:被害程度少の株数  
B:被害程度中の株数  
C:被害程度多の株数  
N:調査株数

葉害は各調査日に葉部および根部(10月31日のみ)について肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。+++重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

特になし。

( 2024 ) 年度 委託

作物名

( かぶ )

対象病害虫名 キスジノミハムシ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会高知試験場

**3. 試験成績****<被害調査>**

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たり上位20葉の食痕数			根部の被害程度						
			第1回 処理前日 10/17		第1回 処理7日後 10/25	第2回 処理6日後 10/31	調査株 数		第2回処理6日後 10/31			
			I	II	III	平均	無	少	中	多		
106) サイモディスDC  イソシクロセラム 9.3%	4000倍 7日間隔 2回散布	I	23	2	4	10.3	10	6	0	3	1	30.0
		II	28	11	4	10.3	10	7	1	1	1	20.0
		III	22	8	8	10.3	10	4	2	1	3	43.3
		平均	24.3	7.0	5.3	10.0						31.1
Lot.No.HWI002-041-002			対無処理比		10.1	10.8						32.5
対) モスピラン顆粒水溶剤  アセタミプロト 20.0%	2000倍 7日間隔 2回散布	I	28	25	15	10.0	10	1	1	2	6	76.7
		II	33	30	7	10.0	10	0	2	4	4	73.3
		III	23	49	18	10.0	10	0	3	3	4	70.0
		平均	28.0	34.7	13.3	10.0						73.3
無処理			対無処理比		50.1	27.1						76.7
無処理	—	I	25	61	45	10.0	10	0	1	2	7	86.7
		II	22	70	40	10.0	10	0	0	0	10	100
		III	24	77	62	10.0	10	0	0	0	10	100
		平均	23.7	69.3	49.0	10.0						95.6
対無処理比			100		100	100						100

\*被害度=(A+2B+3C)/3N×100 A:被害程度少の株数。B:被害程度中の株数。C:被害程度多の株数。N:調査株数

**<虫数調査>**

供試薬剤	処理方法	連制	20株当たりの寄生成虫数					葉害 10/19,25,28,31	
			第1回 処理前日 10/17		第1回 処理1日後 10/19	同処理7日後 10/25	第2回 処理3日後 10/28	第2回 処理6日後 10/31	
			I	II	III	計	(0)	(0)	
106) サイモディスDC  対) モスピラン顆粒水溶剤	4000倍 7日間隔 2回散布	I	0	0	0	0	0	0	—
		II	2	0	0	0	0	0	—
		III	4	0	0	0	0	0	—
		計	6	0	0	0	0	0	—
2000倍 7日間隔 2回散布	—	対無処理比	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	—
		I	0	0	0	1	0	0	—
		II	2	0	0	0	0	0	—
		III	0	0	0	0	0	0	—
無処理	—	計	2	0	0	1	0	0	—
		対無処理比	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	—
		I	1	3	1	1	0	0	—
		II	2	3	0	0	0	0	—
無処理	—	III	0	1	2	0	1	1	—
		計	3	7	3	1	1	1	—
		対無処理比	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	—

**4. 考察** (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、第2回処理6日後の根部の被害度の対無処理比の結果を重視して行った。

対照薬剤の防除効果が低かった。

**106) サイモディス DC 4000倍希釈液 7日間隔 2回散布 ACC-**

本剤の4000倍希釈液7日間隔2回散布は、対照薬剤のモスピラン顆粒水溶剤2000倍希釈液7日間隔2回散布と比較して防除効果は優り、無処理区と比較して効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( レタス )

対象病害虫名 ハスモンヨトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場 担当者氏名 長岡広行、横田佑哉、飯干浩美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 高知県香南市野市町深渕本田 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

対象病害虫発生状況 多発

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壤条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:極早生シスコ 播種:2024年8月21日 定植:9月27日 栽植距離:畠幅:150 cm×株間30 cm 条間30 cm

千鳥3条植え 露地(こかげマルチ)栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。土性:壤土

試験期間中の防除薬剤なし。

区制・面積・試験区の構成 1区 4.1 m<sup>2</sup> (1.5m×2.7m) 27株 3連制

1-I	3-I	2-II			
2-I	1-II	3-II	2-III	3-III	1-III



1:NNI-2101 SC50 2:グレーシア乳剤 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

#### 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年10月9日 (処理量) 195L/10a

(処理方法) 各薬剤を所定濃度に希釈し、背負式動力噴霧機を用いて葉の表裏が良く濡れる様に散布した。展着剤は加用しなかった。

(作物のステージ) 生育期(草丈10cm、7葉前後、株直径15~20cm)

(処理前後の降雨影響) 降雨は認められなかった。

#### 試験期間中の気象条件

月日	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16
平均気温(℃)	21.3	21.0	20.6	20.0	21.1	21.7	22.5	22.7
降水量(mm)	0	0	0	0	0	2.5	0	0

観測地点:高知試験場内観測データ

#### 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指標等を用いた場合は指標分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(10月9日)、処理2日後(10月11日)、同5日後(10月14日)、同7日後(10月16日)

(調査方法) 各区中央付近の10株について、生息虫数を若・中・老齢別に調査した。

薬害は、各調査日に茎葉部への薬害症状の有無について肉眼で観察し、薬害症状の有無について以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++:重度の薬害症状を認める。

#### その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

( 2024 ) 年度 委託

作物名  
( レタス )

対象病害虫名 ハスモンヨトウ

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場

## 3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	10株当たりの寄生幼虫数												薬害			
			処理前 (10/9)				処理2日後 (10/11)				処理5日後 (10/14)							
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計				
42) NNI-2101 SC50	I	54	26	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	-	
	2000倍	II	16	58	0	74	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	8	-
新規化合物 50g/L	散布	III	37	80	0	117	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4	-
		計	107	164	0	271	0	0	0	0	0	0	0	4	16	0	20	
Lot No.123-420015			(補正密度指数)				(0)				(0)				(9.3)			
対) グレーシア乳剤	I	44	44	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	2000倍	II	29	46	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
フルキサメタミド 10.0%	散布	III	9	79	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	-
		計	82	169	0	251	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
(補正密度指数)			(0)				(0)				(0)				(0.5)			
	I	62	40	0	102	47	54	0	101	3	92	0	95	3	101	1	105	
	II	31	61	0	92	13	63	0	76	8	39	0	47	3	65	0	68	
無処理	III	17	55	0	72	14	61	0	75	1	37	0	38	3	34	0	37	
	計	110	156	0	266	74	178	0	252	12	168	0	180	9	200	1	210	
(補正密度指数)			(100)				(100)				(100)				(100)			

## 4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、処理2、5、7日後における寄生幼虫数の補正密度指数の結果で行った。

42) NNI-2101 SC50 2000倍希釈液散布 BAA-

本剤 2000倍希釈液散布は、対照薬剤のグレーシア乳剤 2000倍希釈液散布と比較して同等、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。 実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。